

平成28年度

琴浦町男女共同参画町民意識調査

調査結果報告書



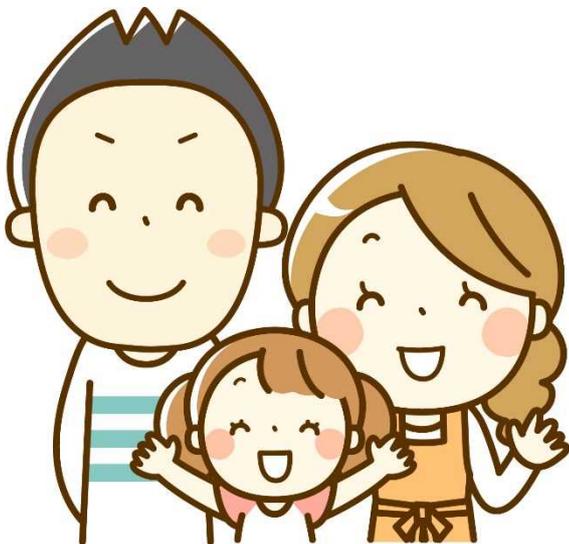
みんなわいわい♪

コトウライフ

KOTOURA LIFE

目 次

この調査について（調査の概要）	2
調査の結果	
1. 男女平等・男女共同参画について	5
2. 仕事について	11
3. 家庭について	17
4. 地域活動について	23
5. DVについて	24
6. 男女が共に手を取りあう社会にしていくために	29



この調査について(調査の概要)

1. 調査の目的

この調査は、琴浦町における男女共同参画社会の実現を目指す「第3次琴浦町男女共同参画プラン」の策定と、今後の男女共同参画推進の基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査の方法

(1) 調査対象 18歳以上の町民 2,000人 (平成28年10月時点 人口割)

年 齢	男 性	女 性	計
18～29歳	208人	182人	390人
30～39歳	242人	152人	394人
40～49歳	181人	166人	347人
50～59歳	164人	141人	305人
60～69歳	158人	122人	280人
70歳以上	163人	121人	284人
合 計	1,116人	884人	2,000人

(2) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出

(3) 調査期間 平成28年11月1日～平成28年12月13日

(4) 調査方法 郵送による発送・回収

(5) 実施主体 琴浦町(所管：企画情報課)

3. 回収結果

回収数 569人(回収率 28.5%)

(1) 性別

男 性		女 性		性別不明	
人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
258人	45.4%	288人	50.6%	23人	4.0%

(2) 年齢階層

区 分	全 体	男 性	女 性	性別不明
18～29歳	68人(12.0%)	29人(11.2%)	39人(13.5%)	0人(0%)
30～39歳	100人(17.6%)	37人(14.3%)	57人(19.8%)	6人(26.1%)
40～49歳	92人(16.2%)	29人(11.2%)	61人(21.2%)	2人(8.7%)
50～59歳	115人(20.2%)	60人(23.3%)	51人(17.7%)	4人(17.4%)
60～69歳	111人(19.5%)	61(23.6%)	46人(16.0%)	4人(17.4%)
70歳以上	79人(13.8%)	42人(16.4%)	33人(11.5%)	4人(17.4%)
無回答	4人(0.7%)	0人(0%)	1人(0.3%)	3人(13.0%)
合 計	569人(100%)	258人(100%)	288人(100%)	23人(100%)

(3) 自身の職業

区分	全体	男性	女性	性別不明
勤め人(正規)	226人(39.7%)	118人(45.7%)	102人(35.4%)	6人(26.1%)
勤め人(非正規)	95人(16.7%)	30人(11.6%)	62人(21.5%)	3人(13.0%)
農林漁業	69人(12.1%)	48人(18.6%)	19人(6.6%)	2人(8.7%)
商工業	25人(4.4%)	11人(4.3%)	11人(3.8%)	3人(13.0%)
家事専業	37人(6.5%)	0人(0%)	36人(12.5%)	1人(4.3%)
その他	21人(3.7%)	12人(4.7%)	7人(2.4%)	2人(8.7%)
学生	8人(1.4%)	1人(0.4%)	7人(2.4%)	0人(0%)
無職	83人(14.6%)	37人(14.3%)	43人(15.1%)	3人(13.0%)
無回答	5人(0.9%)	1人(0.4%)	1人(0.3%)	3人(13.0%)

(4) 配偶者の状況

区分	全体	男性	女性	性別不明
既婚	410人(72.1%)	183人(70.9%)	212人(73.6%)	15人(65.3%)
未婚	101人(17.8%)	58人(22.5%)	40人(13.9%)	3人(13.0%)
離別・死別	53人(9.3%)	17人(6.6%)	35人(12.2%)	1人(4.3%)
無回答	5人(0.8%)	0人(0%)	1人(0.3%)	4人(17.4%)

(5) 配偶者の職業

区分	全体	男性(配偶者)	女性(配偶者)	性別不明
勤め人(正規)	165人(29.0%)	107人(37.2%)	52人(20.2%)	6人(26.1%)
勤め人(非正規)	68人(12.0%)	23人(8.0%)	42人(16.3%)	3人(13.0%)
農林漁業	56人(9.8%)	27人(9.4%)	27人(10.5%)	2人(8.7%)
商工業	24人(4.2%)	15人(5.2%)	8人(3.1%)	1人(4.3%)
家事専業	18人(3.2%)	1人(0.3%)	17人(6.6%)	0人(0%)
学生	11人(1.9%)	7人(2.4%)	4人(1.6%)	0人(0%)
無職	68人(12.5%)	32人(11.1%)	33人(12.8%)	3人(13.0%)
無回答	159人(27.4%)	76人(26.4%)	75人(28.9%)	8人(34.8%)

(6) 世帯類型

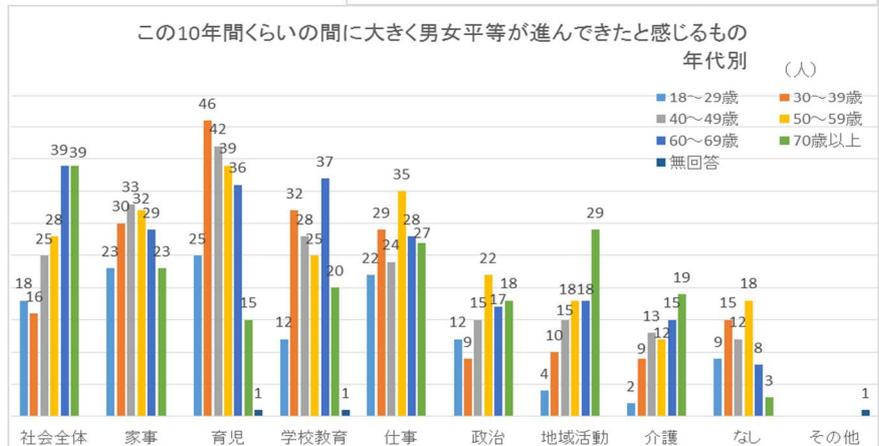
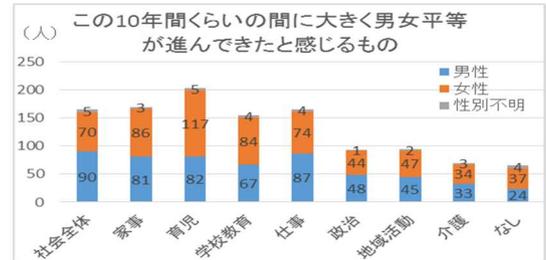
区分	全体	男性	女性	性別不明
単身世帯	22人(3.9%)	14人(5.4%)	8人(2.8%)	0人(0%)
1世代世帯	83人(14.6%)	36人(14.0%)	40人(13.9%)	7人(30.4%)
2世代世帯	241人(42.4%)	119人(46.1%)	114人(39.6%)	8人(34.8%)
3世代世帯	185人(32.5%)	75人(29.1%)	107人(37.2%)	3人(13.0%)
その他	15人(2.6%)	4人(1.5%)	9人(3.0%)	2人(8.8%)
無回答	23人(4.0%)	10人(3.9%)	10人(3.5%)	3人(13.0%)

調査の結果

1. 男女平等・男女共同参画について

問7 この10年間くらいの間大きく男女平等が進んできたと感じるものはどれですか？（回答は1つの項目につき1つ）

- 「家事」「育児」「学校教育」「仕事」さらには「社会全体」で大きく男女平等が進んでいると感じる人の割合が男女ともに高く、いずれも全体の25%以上の人が進んでいると感じている。
- 特に「育児」は、女性40%以上の人が進んでいると感じている。
- 「政治」「地域活動」「介護」は男女ともに男女平等が進んできてはいないと感じる人の割合が高い。
- 「介護」は特に平等が進んでいると感じる人の割合が12.3%と、1番低い。
- 60代・70歳以上は「社会全体」の男女平等が進んでいると感じる割合が高い。
- 「家事」「育児」は30代～50代が進んでいると感じており、特に育児は30代が強く感じている傾向にある。
- 「学校教育」は60代の割合が1番高く、次いで30代となっている。
- 「仕事」は50代の割合が高く、18～20代と大きく差がある。
- 「地域活動」は特に70歳以上が、男女平等が進んできており、18～20代の7倍以上となっている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
社会全体	165	29.0%	90	34.9%	70	24.3%	5	21.7%
家事	170	29.9%	81	31.4%	86	29.9%	3	13.0%
育児	204	35.9%	82	31.8%	117	40.6%	5	21.7%
学校教育	155	27.2%	67	26.0%	84	29.2%	4	17.4%
仕事	165	29.0%	87	33.7%	74	25.7%	4	17.4%
政治	93	16.3%	48	18.6%	44	15.3%	1	4.3%
地域活動	94	16.5%	45	17.4%	47	16.3%	2	8.7%
介護	70	12.3%	33	12.8%	34	11.8%	3	13.0%
なし	65	11.4%	24	9.3%	37	12.8%	4	17.4%
無回答	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%	0	0%

その他：スポーツ

問8 現在、次の項目で男女は平等になっていると思いますか？

※「男性が優遇されている派」…「男性が優遇されている」+「男性がやや優遇されている」

※「女性が優遇されている派」…「女性が優遇されている」+「女性がやや優遇されている」

◆家庭生活

- 男女ともに「男性が優遇されている派」の割合が全体で50%以上、「女性が優遇されている派」の割合は20%未満と、「男性が優遇されている派」が大きく上回っている。
- 「男女平等」だと感じる人は、男性の21.3%に比べ、女性は11.5%と少ない。
- H19、H23と比べて、「男女平等」と感じる人の割合は減り、「女性が優遇されている群」の割合が大きく増加している。(H19：3.2%→H23：3.3%→H28：19.3%)
- 18～20代以外は全て、「男性が優遇されている派」が多い。

◆職場

- 男女ともに55%以上の方が、「男性の方が優遇されている派」であり、女性は10%未満である。特に男性は60%を超え、その傾向が強い。
- 「男女平等」だと感じる人は男女ともに20%強となっている。
- H19と比べて、「男女平等」であると感じる人の割合が少し(3.4%)増えている。
- 全ての年代が「男性が優遇されている派」が多く、特に50代・60代が多い。

◆学校教育

- 「男女平等」であると感じる人が、男女ともに60%以上となっている。
- 「男女平等」だと感じる人がH19と比べて20%も増加している。
- 全ての年代で「男女平等」と感じる人が多いが、18～20代と60代の差は60代の方が多く、2倍以上となっている。

◆政治

- 「男性が優遇されている派」の割合が全体で68.2%と非常に高く、特に女性は72.9%と非常に高い。
- 男性は「男女平等」と考えている人21.3%に対し、女性は11.8%と、9.5%下回る。
- 「男女平等」だと感じる人は年々増加傾向にあるが、「男性が優遇されている派」の割合も過去最高となっている。
- 全ての年代で「男性が優遇されている派」が多く、特に30代・50代・60代は割合が高い。

◆法律や制度

- H23と比べ、少し(2.1%)ではあるが「男女平等」と考える人の割合が増加した。
- 30～60代が「男性が優遇されている派」が多い。

◆しきたりや行事

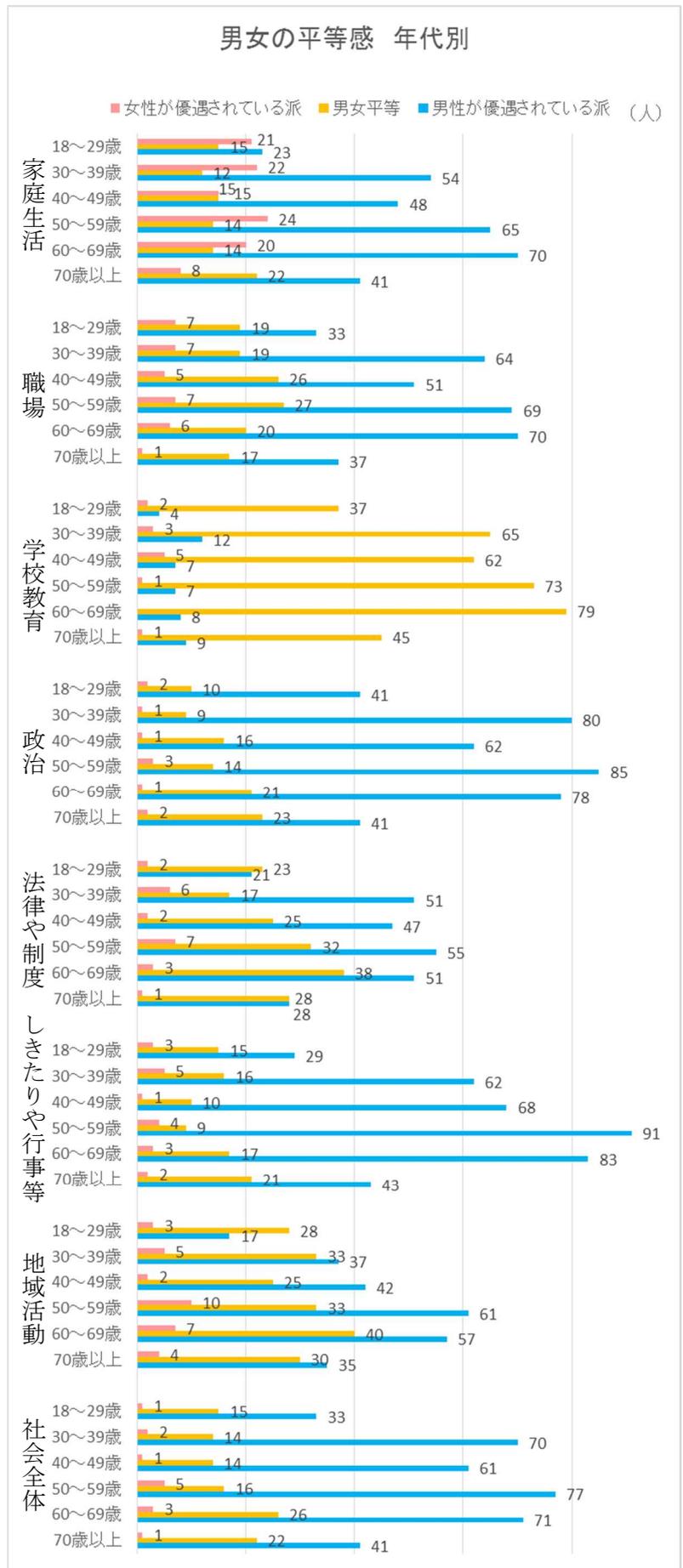
- 男女とも、「男性が優遇されている派」の割合は65%以上と高く、「女性が優遇されている派」は5%未満と大きな差がある。
- 「男女平等」と考える人の割合は男女とも20%未満で、女性(13.2%)に比べて男性(17.1%)の方が高い
- 全ての年代で「男性が優遇されている派」が多く、特に50代・60代は18~20代の約3倍となっている。

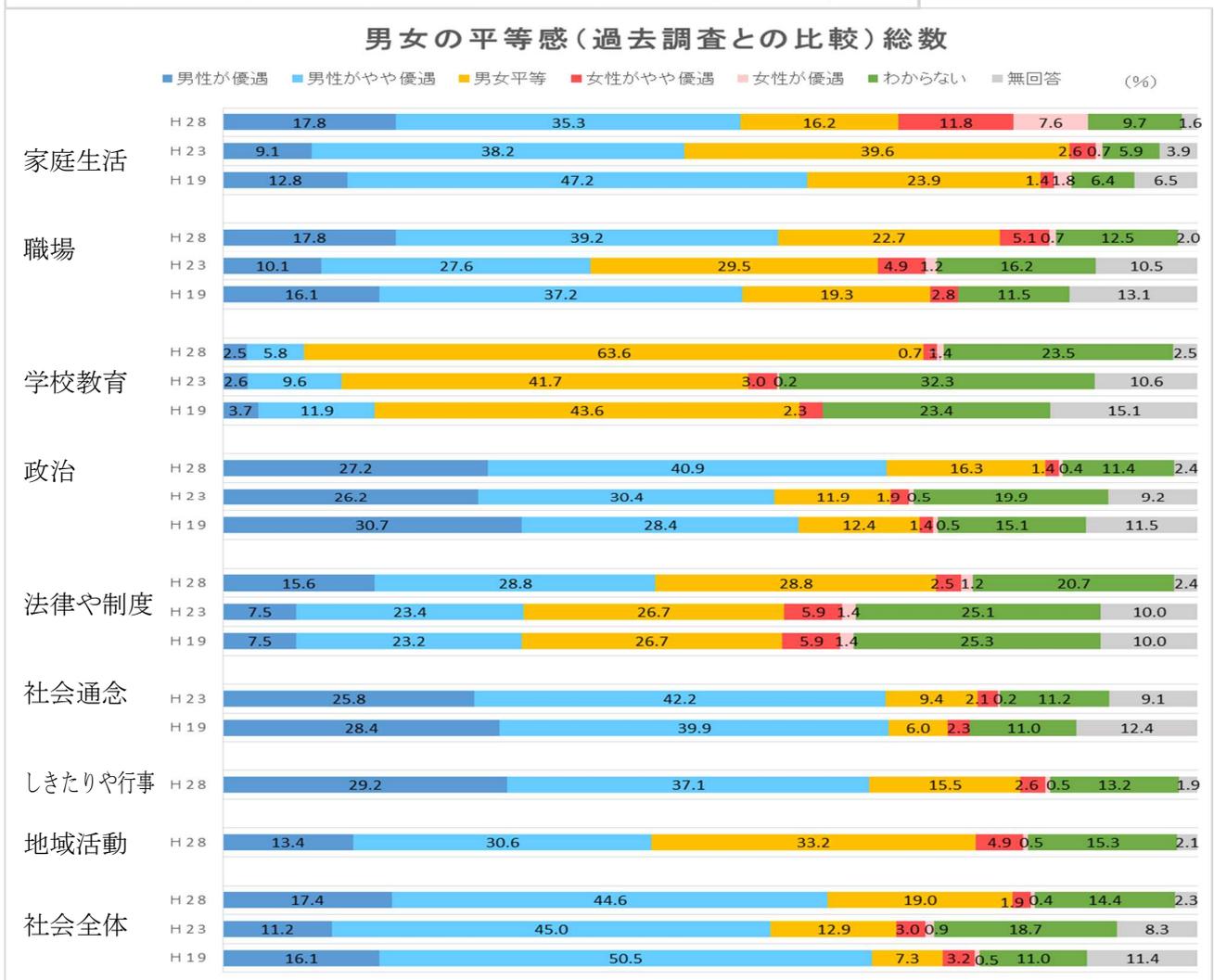
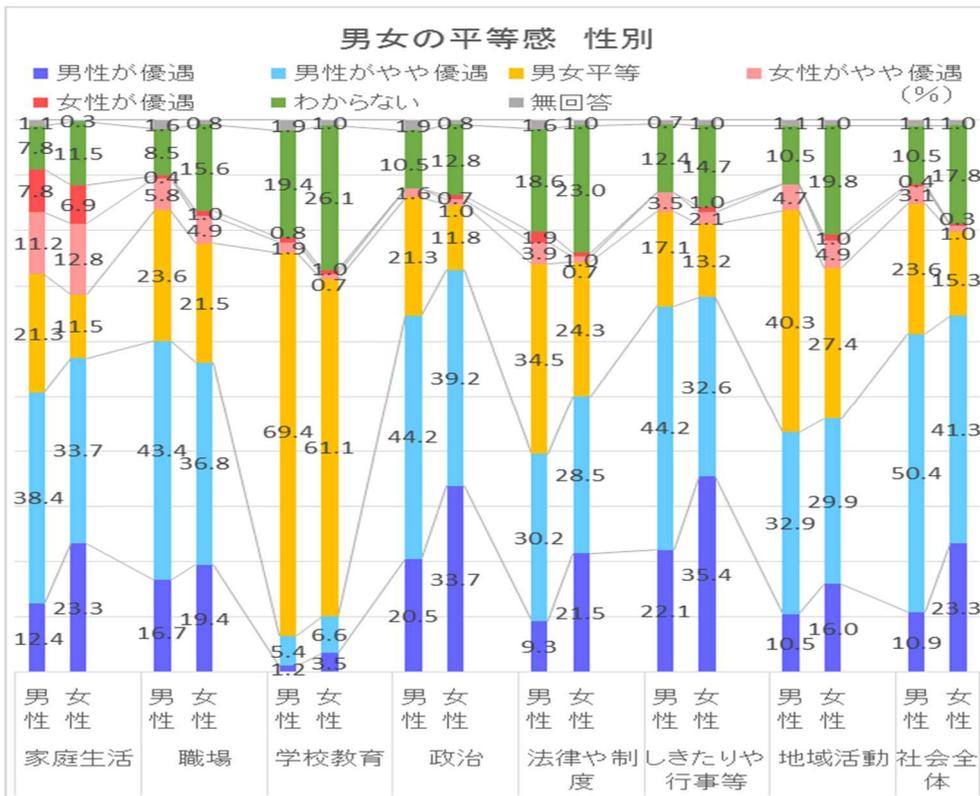
◆地域活動

- 男女ともに、「男性が優遇されている派」の割合は40%以上、「女性が優遇されている派」は5%前後となっている。
- 「男女平等」と感じる人の割合は、男性(40.3%)に対し、女性(27.4%)は12.9%下回る。
- 50代・60代は「男性が優遇されている派」が多く、18~20代は「男女平等」が最も多い。

◆社会全体

- 男女ともに、60%以上が「男性が優遇されている派」であり、「女性が優遇されている派」は5%以下である。
- 「男女平等」と感じる人は男性(23.6%)に対し、女性(15.3%)はやや低い。
- 「男女平等」と感じる人はH19から比べて全体で11.7%増加している。
- 全ての年代で「男性が優遇されている派」が多く、特に30代~60代の割合が多い。





区分		女性が優遇		女性がやや優遇		男女平等		男性がやや優遇		男性が優遇		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家庭生活	全体	43	7.6%	67	11.8%	92	16.2%	201	35.3%	101	17.8%	55	9.7%	10	1.6%
	男性	20	7.8%	29	11.2%	55	21.3%	99	38.4%	32	12.4%	20	7.8%	3	1.1%
	女性	20	6.9%	37	12.8%	33	11.5%	97	33.7%	67	23.3%	33	11.5%	1	0.3%
	不明	3	13.0%	1	4.3%	4	17.4%	5	21.7%	2	8.7%	2	8.7%	6	26.2%
職場	全体	4	0.7%	29	5.1%	129	22.7%	223	39.2%	101	17.8%	71	12.5%	12	2.0%
	男性	1	0.4%	15	5.8%	61	23.6%	112	43.4%	43	16.7%	22	8.5%	4	1.6%
	女性	3	1.0%	14	4.9%	62	21.5%	106	36.8%	56	19.4%	45	15.6%	2	0.8%
	不明	0	0%	0	0%	6	26.1%	5	21.7%	2	8.7%	4	17.4%	6	26.1%
学校教育	全体	4	0.7%	8	1.4%	362	63.6%	33	5.8%	14	2.5%	134	23.5%	14	2.5%
	男性	2	0.8%	5	1.9%	179	69.4%	14	5.4%	3	1.2%	50	19.4%	5	1.9%
	女性	2	0.7%	3	1.0%	176	61.1%	19	6.6%	10	3.5%	75	26.1%	3	1.0%
	不明	0	0%	0	0%	7	30.4%	0	0.0%	1	4.3%	9	39.1%	6	26.2%
政治	全体	2	0.4%	8	1.4%	93	16.3%	233	40.9%	155	27.2%	65	11.4%	13	2.4%
	男性	0	0%	4	1.6%	55	21.3%	114	44.2%	53	20.5%	27	10.5%	5	1.9%
	女性	2	0.7%	3	1.0%	34	11.8%	113	39.2%	97	33.7%	37	12.8%	2	0.8%
	不明	0	0%	1	4.3%	4	17.4%	6	26.1%	5	21.7%	1	4.3%	6	26.2%
法律や制度	全体	7	1.2%	14	2.5%	164	28.8%	164	28.8%	89	15.6%	118	20.7%	13	2.4%
	男性	5	1.9%	10	3.9%	89	34.5%	78	30.2%	24	9.3%	48	18.6%	4	1.6%
	女性	2	0.7%	3	1.0%	70	24.3%	82	28.5%	62	21.5%	66	23.0%	3	1.0%
	不明	0	0%	1	4.3%	5	21.7%	4	17.4%	3	13.0%	4	17.4%	6	26.2%
しきたりや行事等	全体	3	0.5%	15	2.6%	88	15.5%	211	37.1%	166	29.2%	75	13.2%	11	1.9%
	男性	0	0%	9	3.5%	44	17.1%	114	44.2%	57	22.1%	32	12.4%	2	0.7%
	女性	3	1.0%	6	2.1%	38	13.2%	94	32.6%	102	35.4%	42	14.7%	3	1.0%
	不明	0	0%	0	0%	6	26.1%	3	13.0%	7	30.4%	1	4.4%	6	26.1%
地域活動	全体	3	0.5%	28	4.9%	189	33.2%	174	30.6%	76	13.4%	87	15.3%	12	2.1%
	男性	0	0%	12	4.7%	104	40.3%	85	32.9%	27	10.5%	27	10.5%	3	1.1%
	女性	3	1.0%	14	4.9%	79	27.4%	86	29.9%	46	16.0%	57	19.8%	3	1.0%
	不明	0	0%	2	8.8%	6	26.1%	3	13.0%	3	13.0%	3	13.0%	6	26.1%
社会全体	全体	2	0.4%	11	1.9%	108	19.0%	254	44.6%	99	17.4%	82	14.4%	13	2.3%
	男性	1	0.4%	8	3.1%	61	23.6%	130	50.4%	28	10.9%	27	10.5%	3	1.1%
	女性	1	0.3%	3	1.0%	44	15.3%	119	41.3%	67	23.3%	51	17.8%	3	1.0%
	不明	0	0%	0	0%	3	13.0%	5	21.7%	4	17.4%	4	17.4%	7	30.5%

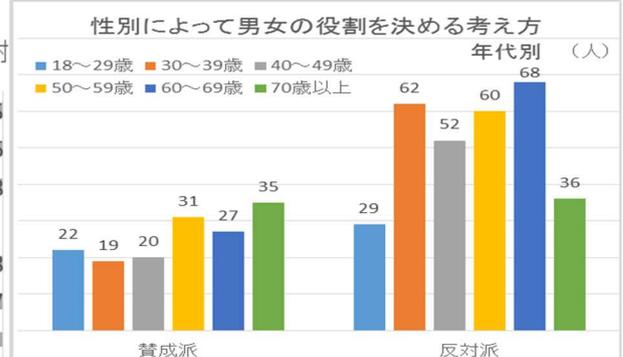
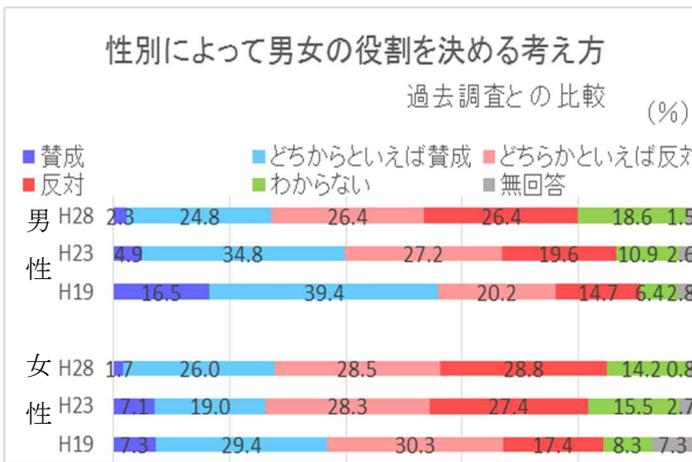
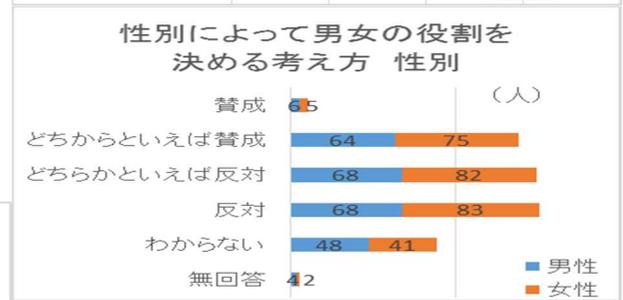
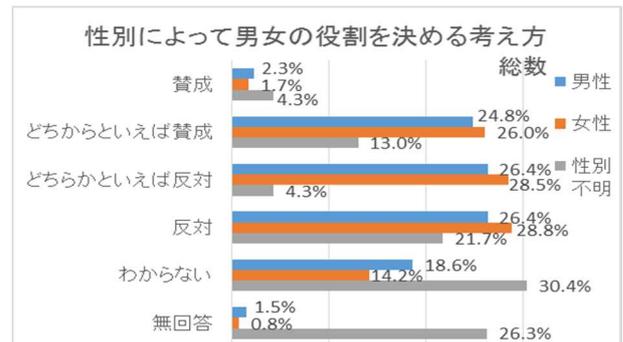
問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。

※「賛成派」…「賛成」+「どちらかといえば賛成」
 ※「反対派」…「反対」+「どちらかといえば反対」

- 「賛成派」は全体で27.1%、「反対派」は53.9%と、反対と考える人が半数以上で賛成と考える人を大きく上回っている。
- 「賛成派」が男性は27.1%、女性は27.7%で、その差は少ない。
- 「反対派」の男性は52.8%、女性は57.6%で、女性の方がやや高い。
- 男性、女性ともに「反対派」の割合は年々高くなっている。

男 性… H19：34.9%
 → H23：46.8%
 → H28：52.8%
 女 性… H19：47.4%
 → H23：55.7%
 → H28：57.3%

- 「賛成派」は年代であまり違いは見られないが、「反対派」は60代が1番多く、次いで30代も割合が高い。反対に、18～20代の割合が1番低い。



区 分	社会全体		男 性		女 性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
賛成	12	2.1%	6	2.3%	5	1.7%	1	4.3%
どちらかといえば賛成	142	25.0%	64	24.8%	75	26.0%	3	13.0%
どちらかといえば反対	151	26.5%	68	26.4%	82	28.5%	1	4.3%
反対	156	27.4%	68	26.4%	83	28.8%	5	21.7%
わからない	96	16.9%	48	18.6%	41	14.2%	7	30.4%
無回答	12	2.1%	4	1.5%	2	0.8%	6	26.3%

問 10 社会の様々な分野で男女がもっと平等になるために、重要なことは何だと思えますか？あてはまる番号に○をしてください。（回答は3つまで）

- 男女ともに「偏見や、性別による仕事という考えを改める」が60%以上、「女性の就業や社会参加を支援・サービスの充実」が30%以上で、この2つが上位になっている。

男性1位…男女を取り巻く様々な偏見や、性別による仕事の考えを改める：60.9%

2位…女性の就業や社会参加を支援・サービスの充実：34.1%

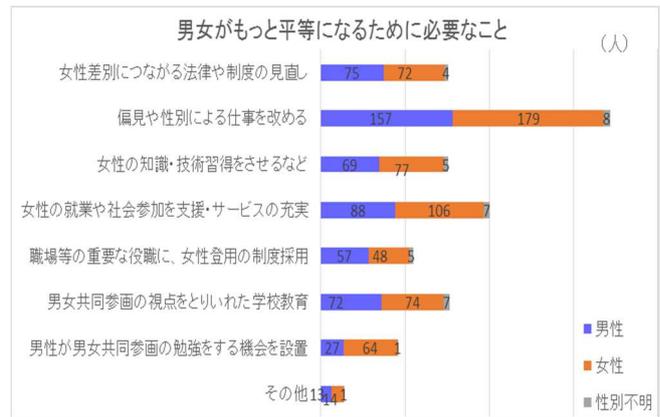
3位…女性差別につながる法律や制度の見直し：29.1%

女性1位…男女を取り巻く様々な偏見や、性別による仕事の考えを改める：62.2%

2位…女性の就業や社会参加を支援・サービスの充実：36.8%

3位…女性の知識・技術習得をさせるなど：26.7%

- 男女ともに上位2つ以外に「女性差別につながる法律や制度の見直し」「女性の知識・技術習得をさせる等」「男女共同参画の視点を取り入れた学校教育」が20%以上となっている。



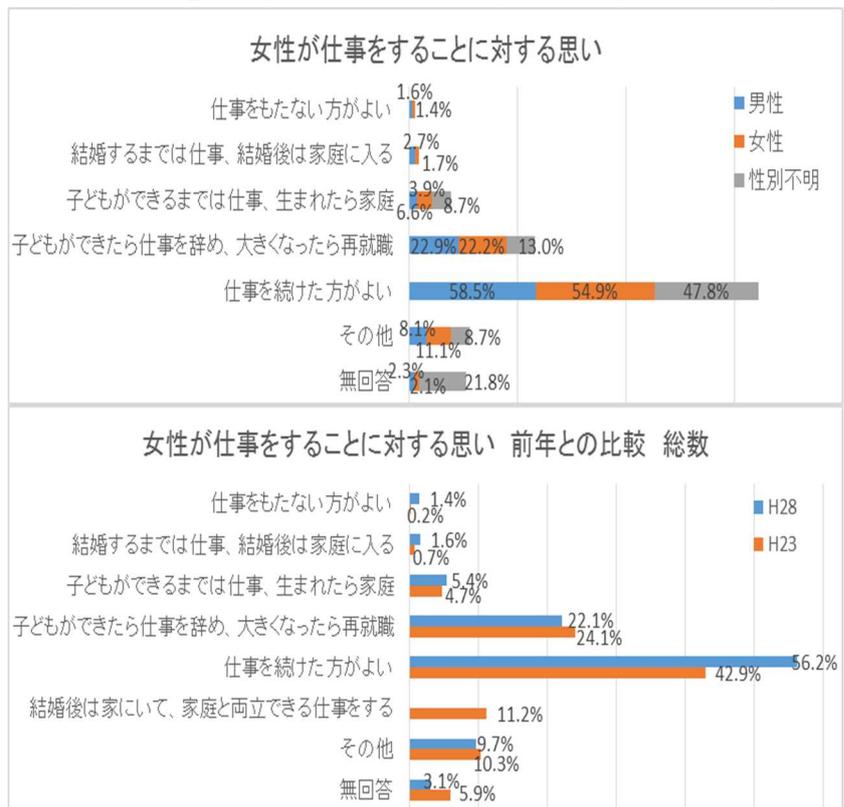
区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性差別につながる法律や制度の見直し	151	26.5%	75	29.1%	72	25.0%	4	17.4%
偏見や性別による仕事という考え方を改める	344	60.5%	157	60.9%	179	62.2%	8	34.8%
女性の知識・技術習得をさせる等	151	26.5%	69	26.7%	77	26.7%	5	21.7%
女性の就業や社会参加を支援・サービスの充実	201	35.3%	88	34.1%	106	36.8%	7	30.4%
職場等の重要な役職に、女性登用の制度採用	110	19.3%	57	22.1%	48	16.7%	5	21.7%
男女共同参画の視点を取り入れた学校教育	153	26.9%	72	27.9%	74	25.7%	7	30.4%
男性が男女共同参画の勉強をする機会を設置	92	16.2%	27	10.5%	64	22.2%	1	4.3%
その他（下記）	28	4.9%	13	5.0%	14	4.9%	1	4.3%

- 男女ともに、男女共同参画や人生様々な活動について学ぶ機会を作る。
- 家庭教育、学校教育が重要。
- 女性がして当たり前という考えを無くすこと。
- 産休制度の見直し、企業の経営者や管理者の意識を変える。
- 女性、男性にしかできないことや個々人の価値観等もあるので、柔軟に対応した方がいい。
- お互いが尊重し合う、理解する、家庭や職場でも話し合う。
- 男性の家事・育児の知識、技術習得と向上、参加。
- 男女平等にこだわらなくてもよい、出来ることをする。本当に男女平等が必要なのかを見直すこと。

2. 仕事について

問11 一般的に、女性が仕事をすることはどう思われていますか？（回答は1つ）

- 「仕事を続けた方がよい」と考える人が男女ともに50%以上、「子どもができれば仕事を辞め、大きくなったら再就職した方がよい」と考える人が20%以上となっている。
- H23と比べて、「仕事を続けた方がよい」と考える人は13.3%増加している。
- H23と比べて、「仕事をもちない方がよい」と考える人が1.2%、「結婚後は家庭に入る方がよい」と考える人は0.9%、「子どもが生まれたら家庭に入る方がよい」と考える人は0.7%、それぞれ増加している。
- 仕事を続けることに対して、「生活費のために仕事をせざるを得ない」「本人の意思や考えによる」という意見が多かった。（その他回答）



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事をもちない方がよい	8	1.4%	4	1.6%	4	1.4%	0	0.0%
結婚するまでは仕事、結婚後	12	2.1%	7	2.7%	5	1.7%	0	0.0%
子どもができるまでは仕事、	31	5.4%	10	3.9%	19	6.6%	2	8.7%
子どもができれば仕事を辞	126	22.1%	59	22.9%	64	22.2%	3	13.0%
仕事を続けた方がよい	320	56.2%	151	58.5%	158	54.9%	11	47.8%
その他（下記）	55	9.7%	21	8.1%	32	11.1%	2	8.7%
無回答	17	3.1%	6	2.3%	6	2.1%	5	21.8%

- 男性の家庭参加、社会資源の整備、時間の有効活用資するものへの投資。
- 子育てに対する支援対策が必要（育児休暇・有給休暇のとりやすい環境等）。
- 生活費のために、男女ともに仕事を続けなければならない状況にある。
- 結婚後は家庭の経済状況や環境、お互いの立場に応じて夫婦で相談して決める（家庭の理解を得る）。
- 本人の意志や考え方を尊重。ただし、仕事を続けることに関し障がいがあるといけない。
- 昔からの固定概念（男は仕事、女は家庭という考え）を変える。
- サポートする人があれば良い（親・子・孫がともに暮らせたなら理想的）。

問12 女性が仕事を辞めなければならない原因（出産・子育てによる中断も含めて）は、どのようなことがあてはまると思われますか？（回答はそれぞれ1つずつ）

※「あてはまる派」…「あてはまる」＋「ややあてはまる」

※「あてはまらない派」…「あてはまらない」＋「ややあてはまらない」

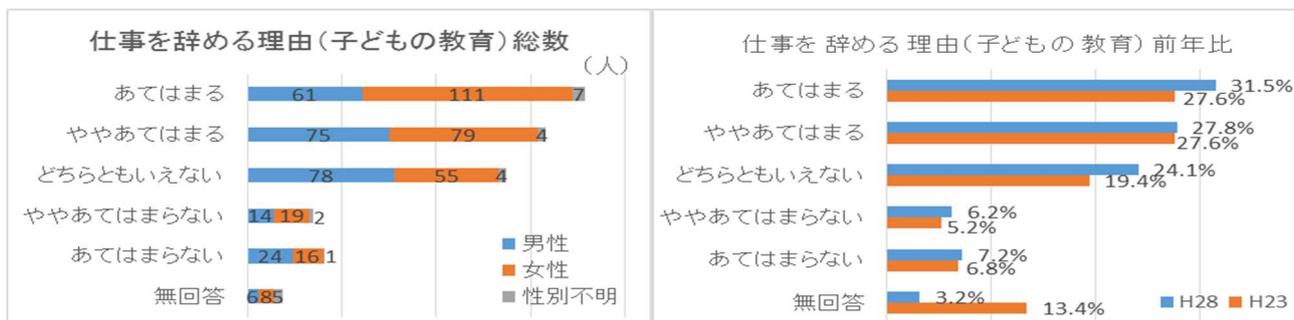
◆乳幼児の養育

- ・「あてはまる派」は全体で85.2%、男女ともに80%以上となっている。
- ・「あてはまらない派」は全体で10%以下、特に女性は4.5%と低い。
- ・「あてはまる派」の人の割合は、H23と比べて7.9%増加している。



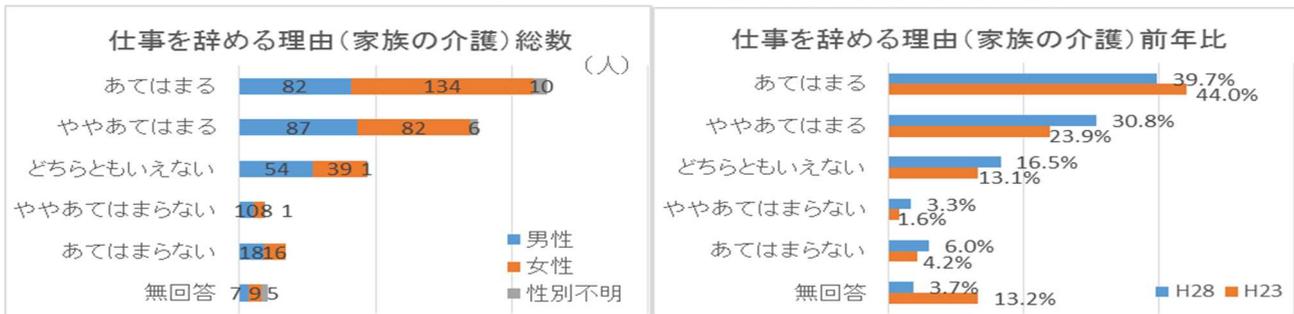
◆子どもの教育

- ・「あてはまる派」の男性は52.7%に対し、女性の方が13.2%上回り65.9%である。
- ・「どちらともいえない」と考える男性30.2%に対し女性は19.1%で、11.1%の差。
- ・H23と比べて、「あてはまる派」が全体で4.1%と、少し増加した。



◆家族の介護

- ・全体で70.5%が「あてはまる派」であり、特に女性は75%で、男性の65.5%より9.5%高くなっている。
- ・「どちらともいえない」と考える人は男性20.9%、女性13.5%で、男性がやや上回る。
- ・H23と比べて、「あてはまる派」がわずかに（2.3%）減少している。



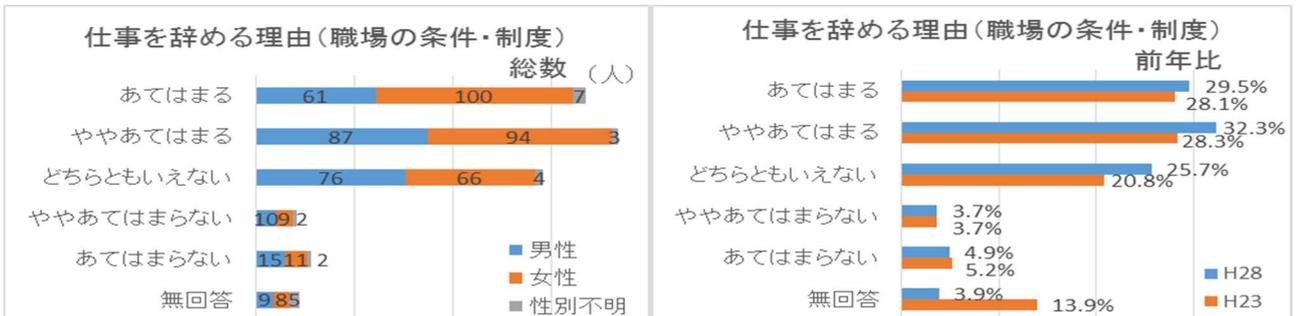
◆自分の健康の問題

- ・「あてはまる派」が男性52.3%に対し、女性は65.0%で12.7%差がある。
- ・H23と比べて、「あてはまる派」が9.5%減少している。
- ・H23と比べて、「どちらともいえない」が13.4%上回っている。



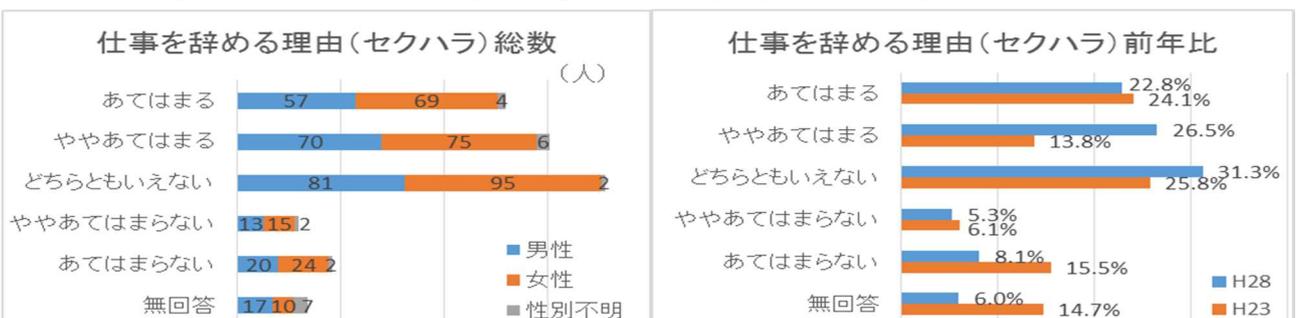
◆職場の条件や制度

- ・「あてはまる派」は全体で61.8%、男性57.3%に比べ女性は67.3%で1割増加している。
- ・「あてはまらない派」は男女ともに1割以下となっている。
- ・H23と比べて、「あてはまる派」は5.4%増えている。
- ・H23と比べて、「どちらともいえない」が4.9%減っている。



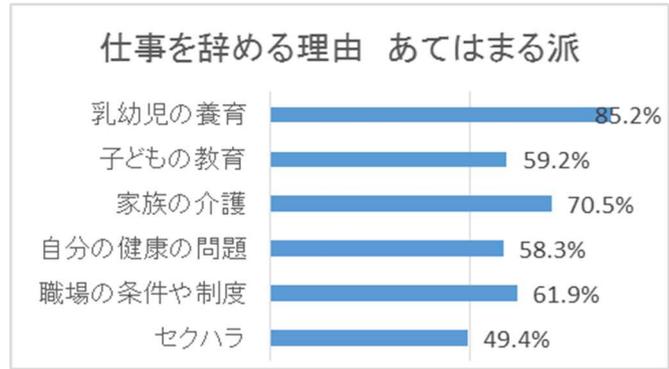
◆セクシュアル・ハラスメント

- ・「あてはまる派」は男女ともに5割以下となっている。
- ・「どちらともいえない」は男女ともに3割以上となっている。
- ・H23と比べて、「あてはまる派」は11.4%増加している。
- ・H23と比べて、「あてはまらない派」は8.2%減少している。



◆全体を通して

- 最も女性が仕事を辞めなければならない原因となることは「乳幼児の養育」で8割以上が回答している。
- 次いで、「家族の介護」が7割以上となっている。
- 「セクハラ」以外全て、5割以上の人があてはまると答えている。



区分		全体		男性		女性		性別不明	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
乳幼児の養育	あてはまる	367	64.5%	152	58.9%	203	70.5%	12	52.2%
	ややあてはまる	118	20.7%	65	25.2%	49	17.0%	4	17.4%
	どちらともいえない	35	6.2%	18	7.0%	16	5.6%	1	4.3%
	ややあてはまらない	13	2.3%	5	1.9%	7	2.4%	1	4.3%
	あてはまらない	16	2.8%	10	3.9%	6	2.1%	0	0.0%
	無回答	20	3.5%	8	3.1%	7	2.4%	5	21.8%
子どもの教育	あてはまる	179	31.5%	61	23.6%	111	38.5%	7	30.4%
	ややあてはまる	158	27.8%	75	29.1%	79	27.4%	4	17.4%
	どちらともいえない	137	24.1%	78	30.2%	55	19.1%	4	17.4%
	ややあてはまらない	35	6.2%	14	5.4%	19	6.6%	2	8.7%
	あてはまらない	41	7.2%	24	9.3%	16	5.6%	1	4.3%
	無回答	19	3.2%	6	2.4%	8	2.8%	5	21.7%
家族の介護	あてはまる	226	39.7%	82	31.8%	134	46.5%	10	43.5%
	ややあてはまる	175	30.8%	87	33.7%	82	28.5%	6	26.1%
	どちらともいえない	94	16.5%	54	20.9%	39	13.5%	1	4.3%
	ややあてはまらない	19	3.3%	10	3.9%	8	2.8%	1	4.3%
	あてはまらない	34	6.0%	18	7.0%	16	5.6%	0	0.0%
	無回答	21	3.7%	7	2.7%	9	3.1%	5	21.7%
自分の健康の問題	あてはまる	207	36.4%	80	31.0%	120	41.7%	7	30.4%
	ややあてはまる	125	22.0%	55	21.3%	67	23.3%	3	13.0%
	どちらともいえない	151	26.5%	84	32.6%	63	21.9%	4	17.4%
	ややあてはまらない	30	5.3%	15	5.8%	14	4.9%	1	4.3%
	あてはまらない	34	6.0%	17	6.6%	15	5.2%	2	8.7%
	無回答	22	3.8%	7	2.7%	9	3.0%	6	26.1%
職場の条件や制度	あてはまる	168	29.5%	61	23.6%	100	34.7%	7	30.4%
	ややあてはまる	184	32.3%	87	33.7%	94	32.6%	3	13.0%
	どちらともいえない	146	25.7%	76	29.5%	66	22.9%	4	17.4%
	ややあてはまらない	21	3.7%	10	3.9%	9	3.1%	2	8.7%
	あてはまらない	28	4.9%	15	5.8%	11	3.8%	2	8.7%
	無回答	22	3.9%	9	3.5%	8	2.9%	5	21.7%
セクハラ	あてはまる	130	22.8%	57	22.1%	69	24.0%	4	17.4%
	ややあてはまる	151	26.5%	70	27.1%	75	26.0%	6	26.1%
	どちらともいえない	178	31.3%	81	31.4%	95	33.0%	2	8.7%
	ややあてはまらない	30	5.3%	13	5.0%	15	5.2%	2	8.7%
	あてはまらない	46	8.1%	20	7.8%	24	8.3%	2	8.7%
	無回答	34	6.0%	17	6.6%	10	3.5%	7	30.4%

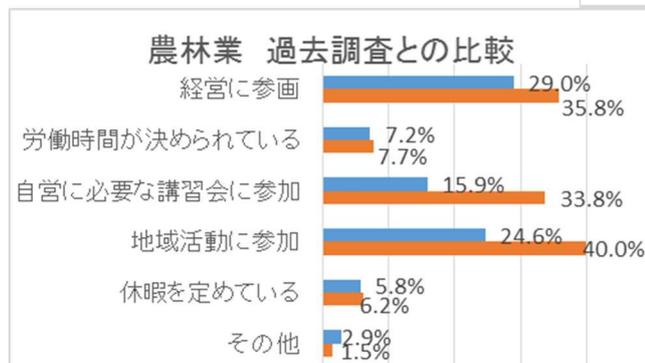
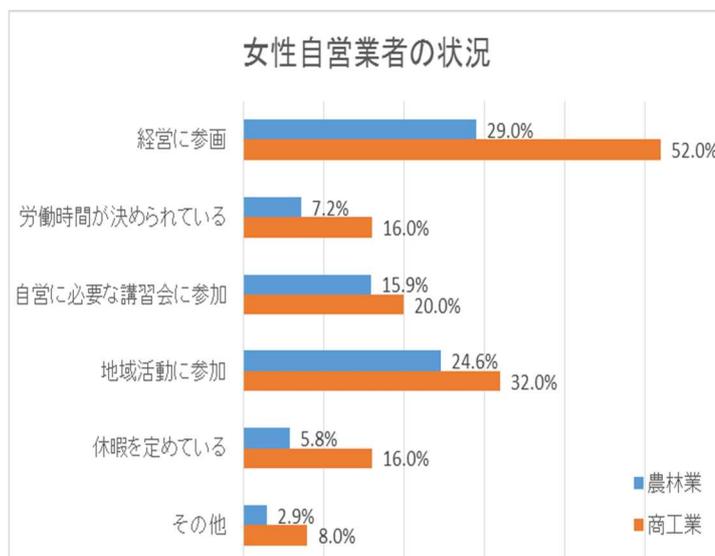
問13 **自営業の方におたずねします。**あてはまるもの全てに○してください。

◆農林業の自営業

- 「経営に参画」している女性は3割以下（29.0%）となっている。
- 「労働時間」や「休暇」が定められている女性は1割以下である。
- H23と比べて、全ての項目において下回っている。
- H23と比べて、「経営に参画」している割合は6.8%減少している。
- H23と比べて特に、「講習会への参加」は17.9%、「地域活動」への参加は15.4%と、10%以上減少している。

◆商工業の自営業

- 「経営に参画」している女性は5割以上（52.0%）と、半数以上が参画している。
- 「労働時間」や「休暇」は16.0%が定められている。
- H23と比べ、「経営に参画」「地域活動に参加」の割合は7%以上増加。
- H23と比べ、「講習会の参加」と「休暇」を定めている割合が1割以上減少している。



区分	農林業		商工業	
	人数	構成比	人数	構成比
経営に参画	20	29.0%	13	52.0%
労働時間が決められている	5	7.2%	4	16.0%
自営に必要な講習会に参加	11	15.9%	5	20.0%
地域活動に参加	17	24.6%	8	32.0%
休暇を定めている	4	5.8%	4	16.0%
その他（下記）	2	2.9%	2	8.0%



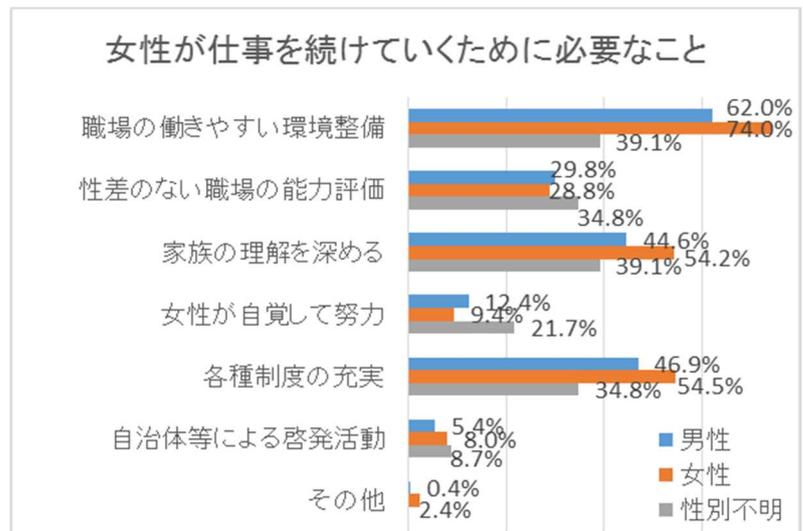
- 必ずしなければならない仕事以外は、ある程度自由に時間を使わせてもらっている。

問14 女性が仕事を続けていくためには、どうすればよいと思いますか？（複数回答）

- 男女ともに上位に「職場の働きやすい環境整備」「各種制度の充実」「家族の理解を深める」の3つがあげられた。

男女 1位・・・職場の働きやすい環境整備 : 男性62.0%、女性74.0%
 2位・・・各種制度の充実（育児・介護・再雇用など）：男性46.9%、女性54.5%
 3位・・・家族の理解を深める（家族で負担をカバー）：男性44.6%、女性54.2%

- 特に男女ともに1番選ばれていた「職場の働きやすい環境整備」は、男性は6割以上、女性は7割以上を占めている。
- 「各種制度の充実」「家族の理解を深める」は特に女性からの支持率が高く、どちらも5割以上となっている。
- 「自治体等による啓発活動」や「女性が自覚して努力」特に低く、10%前後となっている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
職場の働きやすい環境整備	382	67.1%	160	62.0%	213	74.0%	9	39.1%
性差のない職場の能力評価	168	29.5%	77	29.8%	83	28.8%	8	34.8%
家族の理解を深める	280	49.2%	115	44.6%	156	54.2%	9	39.1%
女性が自覚して努力	64	11.2%	32	12.4%	27	9.4%	5	21.7%
各種制度の充実	286	50.3%	121	46.9%	157	54.5%	8	34.8%
自治体等による啓発活動	39	6.9%	14	5.4%	23	8.0%	2	8.7%
その他（下記）	8	1.4%	1	0.4%	7	2.4%	0	0.0%

- 民間企業や周囲の意識改革や協力（子育て、セクハラ、性別による役割を決めるなど）。
- 男性の働き方をスタンダードとしない。
- 年齢による。
- 難しい。
- 女性だけでなく、配偶者にも同じ権利が必要だと思う。
- 出産すれば休まなくてはいけない（身体の休養の面で）。

3. 家庭について

単身世帯（ひとり暮らし）以外の方におたずねします。

問15 次のような仕事は、家庭内で誰がしていますか？

問16 現在の家庭の役割について、分担に満足していますか？

※「男性派」・・・
「主に男性」＋「半分以上男性」
※「女性派」・・・
「主に女性」＋「半分以上女性」
※「満足派」・・・
「満足」＋「やや満足」
※「不満派」・・・
「不満」＋「やや不満」

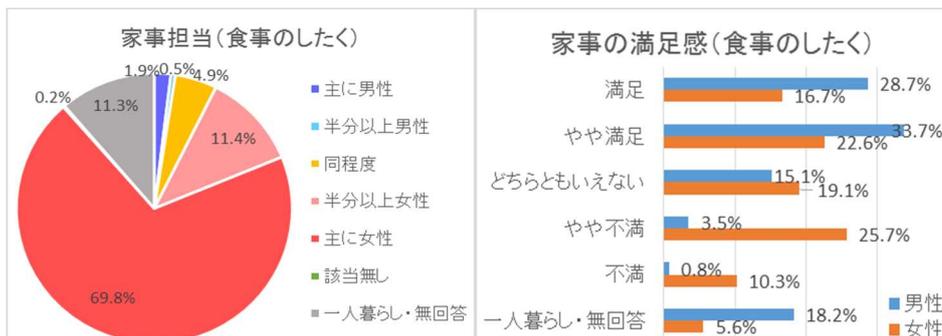
◆収入を得る

- 「男性派」が全体の55.5%と、半分以上となっている。その反面、「女性派」は6.8%である。
- 「同程度」は23.7%で20%以上。
- 男女ともに40%以上が「満足派」である。
- 女性の「不満派」は28.2%で、男性の「不満派」11.2%の約2倍以上となっている。



◆食事のしたく

- 「男性派」はわずか2.4%、「女性派」は81.2%で、33倍以上の差がある。
- 「満足派」は男性62.4%に対し、女性39.3%で、男性の方が23.1%も上回る。
- 「不満派」は、男性はわずか4.3%に対し、女性は36.1%で、31.8%の差がある。



◆食事の片付け

- 「男性派」はわずか5.1%であり、女性は74.3%と、「女性派」が大半を占めている。
- 「満足派」は、男性61.3%、女性37.9%となっている。
- 「不満派」は男性の2.0%に対し、女性は40.3%と、4割以上が不満を抱えている。



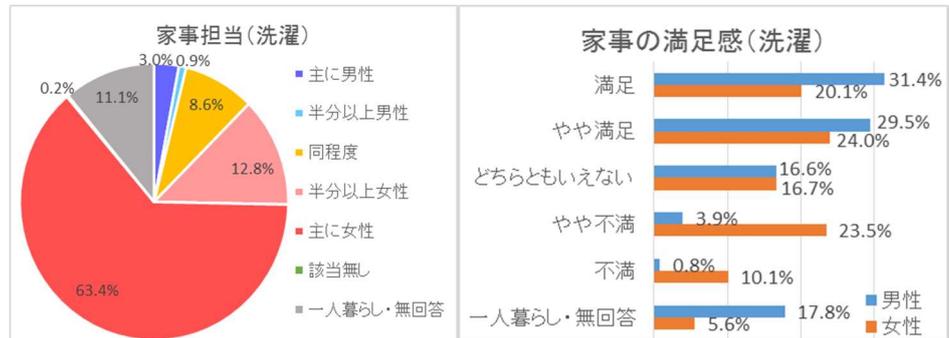
◆掃除

- 「男性派」は5.1%、「女性派」は71.4%で、「男性派」の14%となっている。
- 「満足派」は男性60%、女性37.2%ある。
- 「不満派」は女性37.2%で、男性5.1%を大きく上回っている。



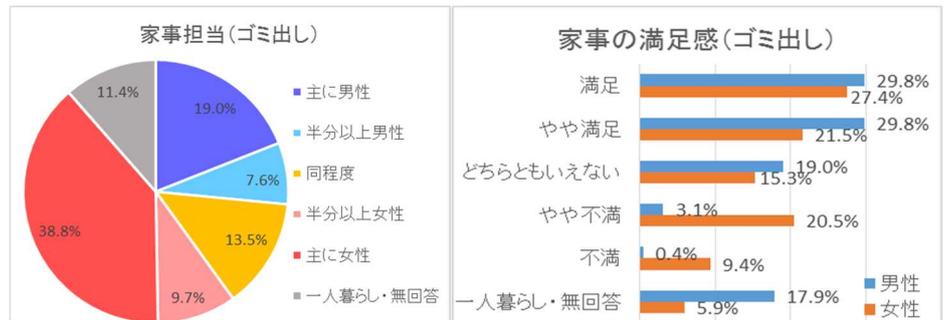
◆洗濯

- 「男性派」3.9%に対し、「女性派」は76.2%で、72.3%の差がある。
- 「不満派」の男性は4.7%に対し、女性は33.7%で29%の差がある。



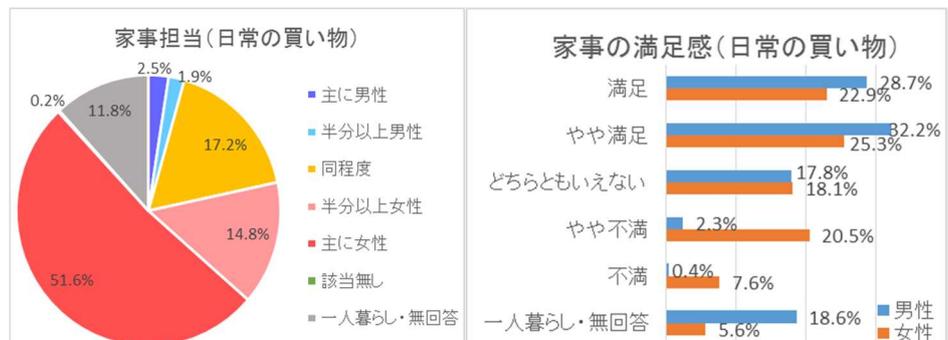
◆ゴミ出し

- 「男性派」26.6%、「女性派」48.5%となっている。
- 男女ともに「満足派」が4割以上となっている。
- 「不満派」は男性3.5%、女性29.9%で、3割以下である。



◆日常の買い物

- 「男性派」4.4%、「女性派」66.5%で、62.1%の差がある。
- 17.2%が「同程度」となっている。
- 男女ともに4割以上が「満足派」である。
- 「不満派」は男性2.7%、女性は28.1%となっている。



◆庭の管理などの外での作業

- 「男性派」38.8%、「女性派」29.9%で、「男性派」がやや上回る。
- 「同程度」が17.2%となっている。
- 男女ともに4割以上が「満足派」である。
- 男性の「不満派」は2.7%、女性は29.1%となっている。



◆子どもの世話

- 「男性派」は1.2%で、2%以内である。「女性派」は52.2%で5割以上となっている。
- 17.6%が「同程度」となっている。
- 「満足派」は男女ともに5割以下である。
- 「不満派」は男性4.7%、女性28.8%となっている。



◆介護・病人の世話

- 「男性派」は2.3%、「女性派」は40.4%となっている。
- 「満足派」は男女ともに低く、特に女性は14.6%で、男性32.9%に対し2倍以上上下回っている。
- 「不満派」は男性3.1%、女性28.5%で、女性が上回る



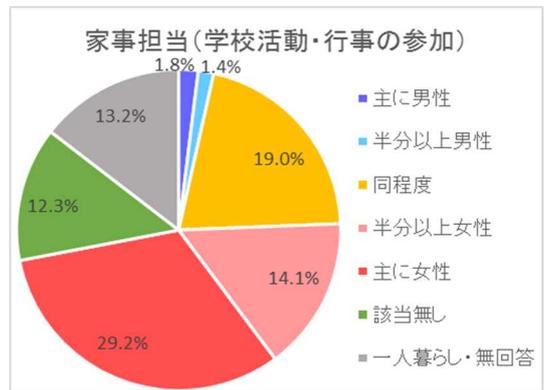
◆地域活動(役員等)

- 「男性派」48%、「女性派」14.2%で、「男性派」が大きく上回る。
- 「同程度」が20.7%で、2割以上となっている。
- 「不満派」は男性4.3%に対し、女性は29.9%となっている。



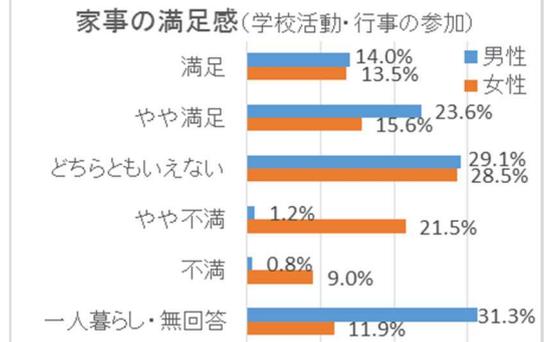
◆子どもの学校活動・
行事への参加

- ・「男性派」3.2%、「女性派」43.3%である。
- ・「同程度」は19%となっている。
- ・「満足派」は男女ともに40%以下である。特に女性は29.1%で、30%以下となっている。
- ・「不満派」は男性2%に対し、女性は30.5%と、3割を超えている。

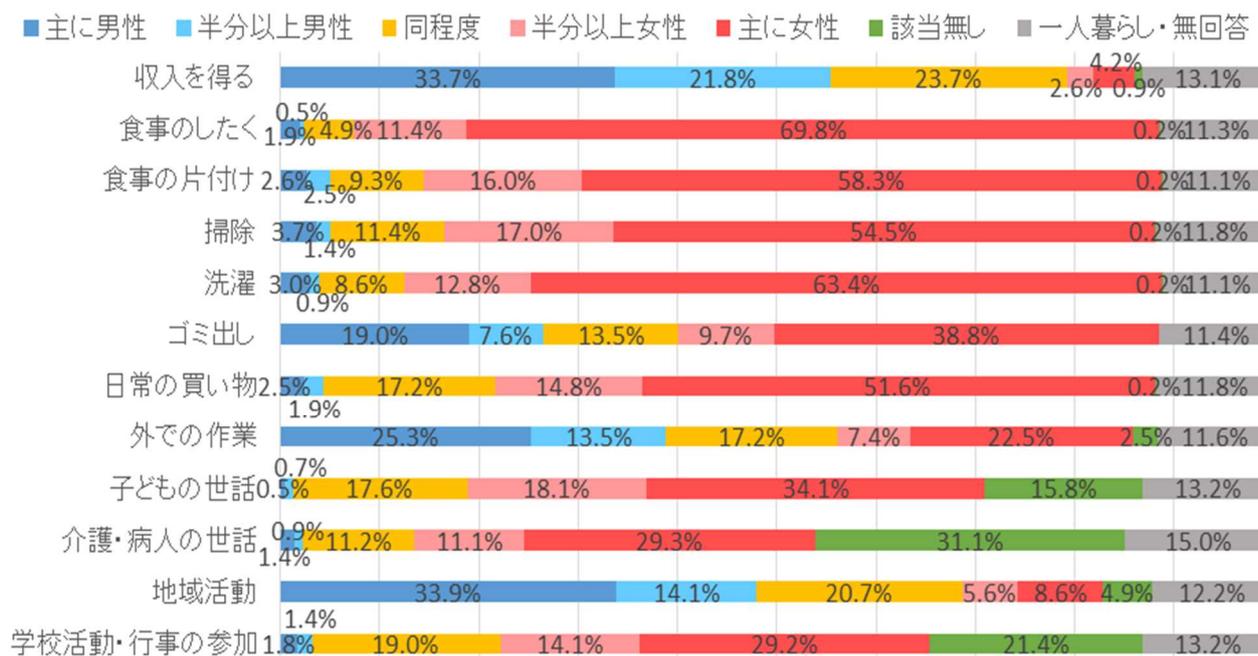


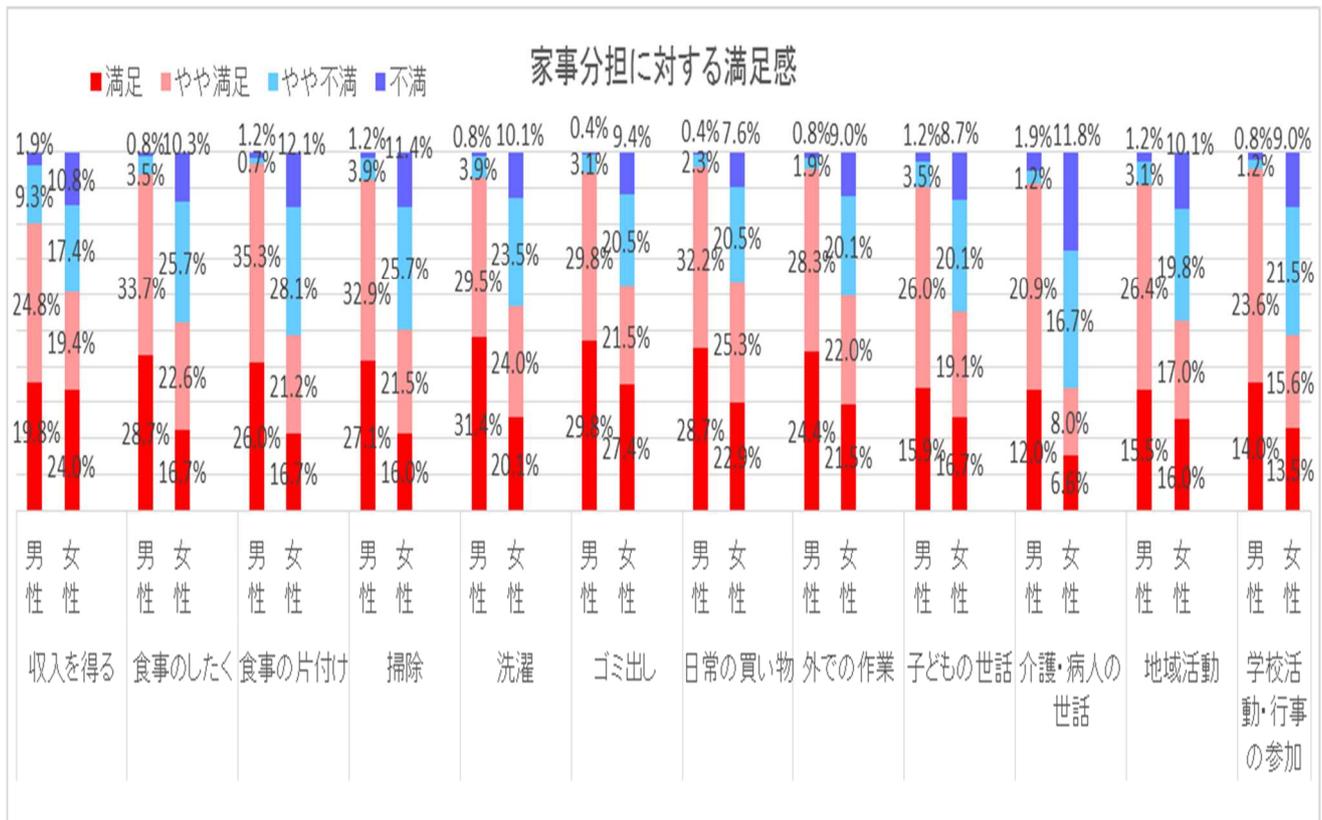
◆全体を通して

- ・「収入を得ること」と「地域活動」は男性が約5割を占めている。
- ・「食事のしたく」「食事の片付け」「掃除」「洗濯」「ゴミ出し」「日常の買い物」「子どもの世話」「介護・病人の世話」「子どもの学校活動・行事への参加」は女性が4割以上である。
- ・特に「食事のしたく」「食事の片付け」「掃除」「洗濯」の家の中で行う仕事は、女性が7割以上、男性は1割以下と、女性の割合がとても高くなっている。
- ・男性の「不満派」は「収入を得る」以外の項目は全て5%前後であるのに対し、女性は全ての項目について3~4割が不満を抱えている。
- ・「収入を得ること」「日常の買い物」「庭の管理などの外作業」「子どもの世話」「地域活動」「子どもの学校活動・行事への参加」は役割分担が「同程度」の割合が2割前後である。



家事の担当





誰が担当しているか

区分	主に男性		半分以上男性		同程度		半分以上女性		主に女性		該当無し		一人暮らし無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
収入を得る	192	33.7%	124	21.8%	135	23.7%	15	2.6%	24	4.2%	5	0.9%	74	13.1%
食事のしたく	11	1.9%	3	0.5%	28	4.9%	65	11.4%	397	69.8%	1	0.2%	64	11.3%
食事の片付け	15	2.6%	14	2.5%	53	9.3%	91	16.0%	332	58.3%	1	0.2%	63	11.1%
掃除	21	3.7%	8	1.4%	65	11.4%	97	17.0%	310	54.5%	1	0.2%	67	11.8%
洗濯	17	3.0%	5	0.9%	49	8.6%	73	12.8%	361	63.4%	1	0.2%	63	11.1%
ゴミ出し	108	19.0%	43	7.6%	77	13.5%	55	9.7%	221	38.8%	0	0%	65	11.4%
日常の買い物	14	2.5%	11	1.9%	98	17.2%	84	14.8%	294	51.6%	1	0.2%	67	11.8%
外作業	144	25.3%	77	13.5%	98	17.2%	42	7.4%	128	22.5%	14	2.5%	66	11.6%
子どもの世話	3	0.5%	4	0.7%	100	17.6%	103	18.1%	194	34.1%	90	15.8%	75	13.2%
介護・病人の世話	8	1.4%	5	0.9%	64	11.2%	63	11.1%	167	29.3%	177	31.1%	85	15.0%
地域活動	193	33.9%	80	14.1%	118	20.7%	32	5.6%	49	8.6%	28	4.9%	69	12.2%
学校活動・行事の参加	10	1.8%	8	1.4%	108	19.0%	80	14.1%	166	29.2%	122	21.3%	75	13.2%

現在の家庭の仕事の役割分担について満足か

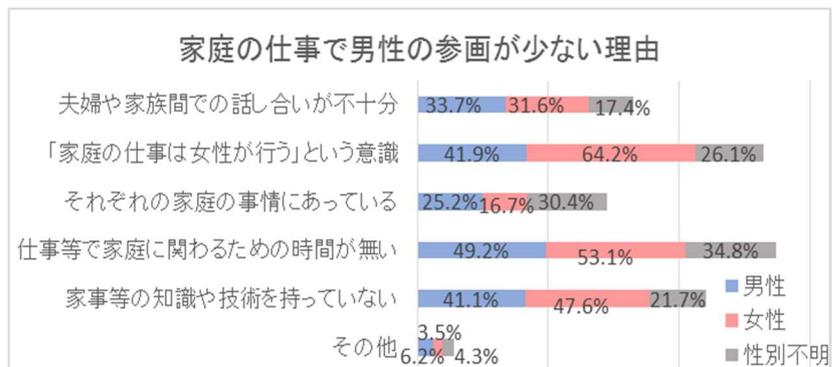
区分		満足		やや満足		どちらともいえない		やや不満		不満		一人暮らし・無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
収入を得る	男性	51	19.8%	64	24.8%	61	23.6%	24	9.3%	5	1.9%	53	20.6%
	女性	69	24.0%	56	19.4%	60	20.8%	50	17.4%	31	10.8%	22	7.6%
	性別不明	6	26.2%	3	13.0%	4	17.4%	1	4.3%	0	0%	9	39.1%
食事準備	男性	74	28.7%	87	33.7%	39	15.1%	9	3.5%	2	0.8%	47	18.2%
	女性	48	16.7%	65	22.6%	55	19.1%	74	25.7%	30	10.3%	16	5.6%
	性別不明	4	17.4%	3	13.0%	5	21.7%	1	4.3%	1	4.3%	9	39.3%
食事片付	男性	67	26.0%	91	35.3%	49	19.0%	2	0.7%	3	1.2%	46	17.8%
	女性	48	16.7%	61	21.2%	47	16.3%	81	28.1%	35	12.1%	16	5.6%
	性別不明	5	21.7%	2	8.7%	6	26.1%	1	4.3%	0	0%	9	39.2%
掃除	男性	70	27.1%	85	32.9%	44	17.1%	10	3.9%	3	1.2%	46	17.8%
	女性	46	16.0%	62	21.5%	57	19.8%	74	25.7%	33	11.4%	16	5.6%
	性別不明	4	17.4%	1	4.3%	5	21.7%	4	17.5%	0	0%	9	39.1%
洗濯	男性	81	31.4%	76	29.5%	43	16.6%	10	3.9%	2	0.8%	46	17.8%
	女性	58	20.1%	69	24.0%	48	16.7%	68	23.5%	29	10.1%	16	5.6%
	性別不明	4	17.4%	3	13.0%	5	21.7%	2	8.7%	0	0%	9	39.2%
ゴミ出し	男性	77	29.8%	77	29.8%	49	19.0%	8	3.1%	1	0.4%	46	17.9%
	女性	79	27.4%	62	21.5%	44	15.3%	59	20.5%	27	9.4%	17	5.9%
	性別不明	4	17.4%	4	17.4%	4	17.4%	2	8.7%	0	0%	9	39.1%
日常の買物	男性	74	28.7%	83	32.2%	46	17.8%	6	2.3%	1	0.4%	48	18.6%
	女性	66	22.9%	73	25.3%	52	18.1%	59	20.5%	22	7.6%	16	5.6%
	性別不明	5	21.7%	2	8.7%	6	26.1%	1	4.3%	0	0%	9	39.2%
外作業	男性	63	24.4%	73	28.3%	65	25.2%	5	1.9%	2	0.8%	50	19.4%
	女性	62	21.5%	63	22.0%	62	21.5%	58	20.1%	26	9.0%	17	5.9%
	性別不明	4	17.4%	1	4.3%	6	26.1%	0	0%	2	8.7%	10	43.5%
子供の世話	男性	41	15.9%	67	26.0%	62	24.0%	9	3.5%	3	1.2%	76	29.4%
	女性	48	16.7%	55	19.1%	69	24.0%	58	20.1%	25	8.7%	33	11.4%
	性別不明	2	8.7%	2	8.7%	6	26.1%	0	0%	1	4.3%	12	52.2%
介護・看病	男性	31	12.0%	54	20.9%	81	31.4%	3	1.2%	5	1.9%	84	32.6%
	女性	19	6.6%	23	8.0%	116	40.3%	48	16.7%	34	11.8%	48	16.6%
	性別不明	2	8.7%	0	0%	7	30.5%	0	0%	1	4.3%	13	56.5%
地域活動	男性	40	15.5%	68	26.4%	84	32.6%	8	3.1%	3	1.2%	55	21.2%
	女性	46	16.0%	49	17.0%	82	28.5%	57	19.8%	29	10.1%	25	8.6%
	性別不明	3	13.0%	1	4.3%	8	34.8%	1	4.3%	0	0%	10	43.6%
学校関係参加	男性	36	14.0%	61	23.6%	75	29.1%	3	1.2%	2	0.8%	81	31.3%
	女性	39	13.5%	45	15.6%	82	28.5%	62	21.5%	26	9.0%	34	11.9%
	性別不明	2	8.7%	2	8.7%	5	21.7%	1	4.3%	0	0%	13	56.6%

問17 家事、子育て、介護などの家庭の仕事で、女性に比べて男性の参加が少ない理由は
何だと思えますか？（複数回答）

- 男女ともに「男性の仕事が忙しい等で、家庭に関わるための時間がない」「家庭の仕事は女性が行うという意識があるため」「男性が家事、子育て、介護等の知識や技術を持っていない」の3つが、参加の少ない理由の上位となっている。

- 男性1位・・・男性の仕事が忙しい等で、家庭に関わるための時間がない：49.1%
 2位・・・家庭の仕事は女性が行うという意識があるため：41.9%
 3位・・・男性が家事、子育て、介護等の知識や技術を持っていない：41.1%
 女性1位・・・家庭の仕事は女性が行うという意識があるため：64.2%
 2位・・・男性の仕事が忙しい等で、家庭に関わるための時間がない：53.1%
 3位・・・男性が家事、子育て、介護等の知識や技術を持っていない：47.6%

- 男女ともに「それぞれの家庭の実情に合っているため」と答える人が1番少ない。特に、男性の25.2%に対し、女性は16.7%と、大きく下回っている。



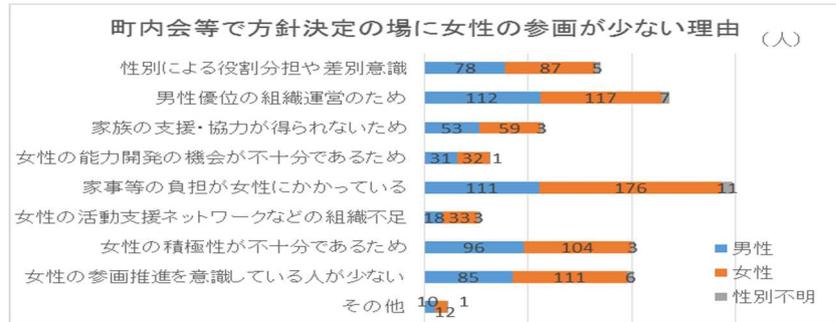
区分	社会全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
夫婦や家族間での話し合いが不十分なため	182	32.0%	87	33.7%	91	31.6%	4	17.4%
「家庭の仕事は女性が行う」という意識があるため	299	52.5%	108	41.9%	185	64.2%	6	26.1%
それぞれの家庭の事情にあっているため	120	21.1%	65	25.2%	48	16.7%	7	30.4%
男性の仕事が忙しい等で、男性が家庭に関わるための時間が無いため	288	50.6%	127	49.2%	153	53.1%	8	34.8%
男性が家事、子育て、介護などの知識や技術を持っていないため	248	43.6%	106	41.1%	137	47.6%	5	21.7%
その他（下記）	27	4.7%	16	6.2%	10	3.5%	1	4.3%

- 男性が仕事を休むための社内制度が整っていない（職場の状況や理解度、帰ってこれない）。
- 男性の理解がないため（甘え、やる気、家庭に対する責任）。
- 男性が働くものだという固定観念や考え方が根強いので、女性がするのが当たり前の社会になっている（特にお年寄りの方）。
- 男性の理解がない（めんどくさいと思っている人が多い・我慢できない）。
- 男性の方がお金を稼ぐ能力があるため（男女間給与格差・収入）。
- 本能や性格（男性はカウイ所に手が届かない、母親として子どもにしてあげたい気持ち強いなど）。
- 社会の認識や配慮（仕事や社会的な負担が男性に偏っている、女性が子育てしやすい社会にすべき）。
- 家庭環境。

4. 地域活動について

問 18 町内会や自治会で、企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由は次のどれがあてはまると思いますか？（複数回答）

- 男女ともに「家事等の負担が女性にかかっている」「男性優位の組織運営のため」の2つが上位となっており、どちらも全体で4割以上が選択している。



- 男性 1位・・・男性優位の組織運営のため : 43.4%
- 2位・・・家事等の負担が女性にかかっている : 43.0%
- 3位・・・女性の積極性が不十分であるため : 37.2%
- 女性 1位・・・家事等の負担が女性にかかっている : 61.1%
- 2位・・・男性優位の組織運営のため : 40.6%
- 3位・・・女性の参画推進を意識している人が少ない : 38.5%

- 特に女性は「家事等の負担が女性にかかっている」が6割以上を占めている。
- 「その他の回答」として、地域によっては「1つの家につき男性1人が代表として参加」というルールがある回答が複数あった。

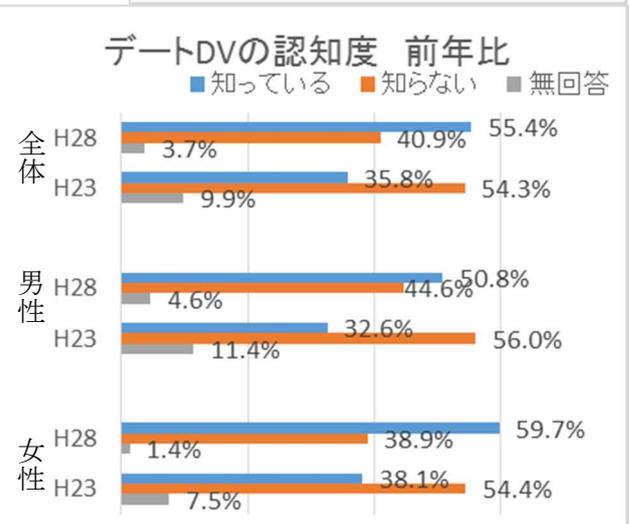
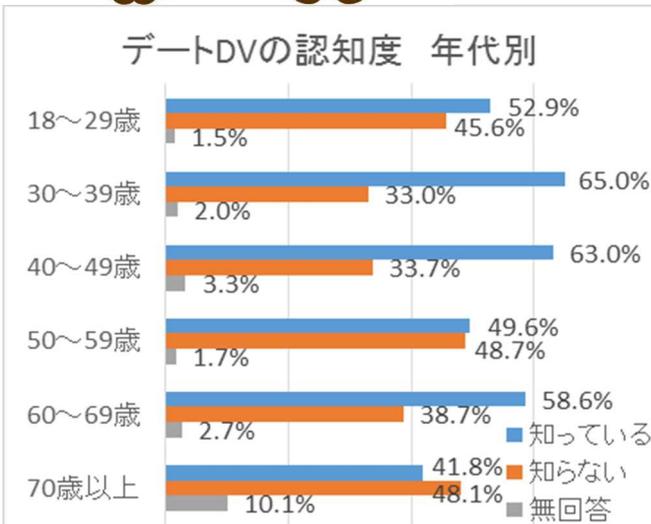
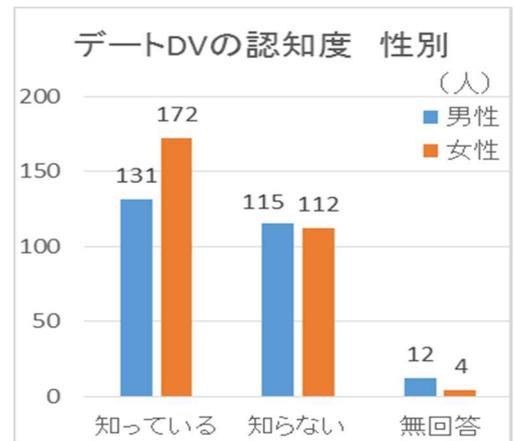
区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
性別による役割分担や差別意識	170	29.9%	78	30.2%	87	30.2%	5	21.7%
男性優位の組織運営のため	236	41.5%	112	43.4%	117	40.6%	7	30.4%
家族の支援・協力が得られない	115	20.2%	53	20.5%	59	20.5%	3	13.0%
女性の能力開発の機会が不十分	64	11.2%	31	12.0%	32	11.1%	1	4.3%
家事等の負担が女性にかかっている	298	52.4%	111	43.0%	176	61.1%	11	47.8%
女性の活動支援ネットワークなどの組織不足	54	9.5%	18	7.0%	33	11.5%	3	13.0%
女性の積極性が不十分	203	35.7%	96	37.2%	104	36.1%	3	13.0%
女性の参画推進を意識している人が少ない	202	35.5%	85	32.9%	111	38.5%	6	26.1%
その他(下記)	23	4.0%	10	3.9%	12	4.2%	1	4.3%

- 高齢者の方たちが特に意識が少ない。その人たちが組織運営しているため。
- 家庭によりそれぞれ理由があるため、各家庭で決めること。
- 都合のよいときだけ女性だからといって逃げることが多い。女性の意識に問題がある。
- せっかくの休日の時間を地域活動にとられたくないと思っている若い人が多い。
- 1戸1人、男が主の出席だから。
- 外仕事（草刈など）は男性が多いが、内仕事（文化的なこと）は女性がしていると思う。
- 男性のイメージで、女性は行きにくい。無理に参加しようとも思わないし、参画についての意識も無い。
- 女性もフルで仕事をして、家事をして、地域活動まではとても疲れて参加できない。

5. DVについて

問19 「デートDV」という言葉をご存知でしたか？（回答は1つ）

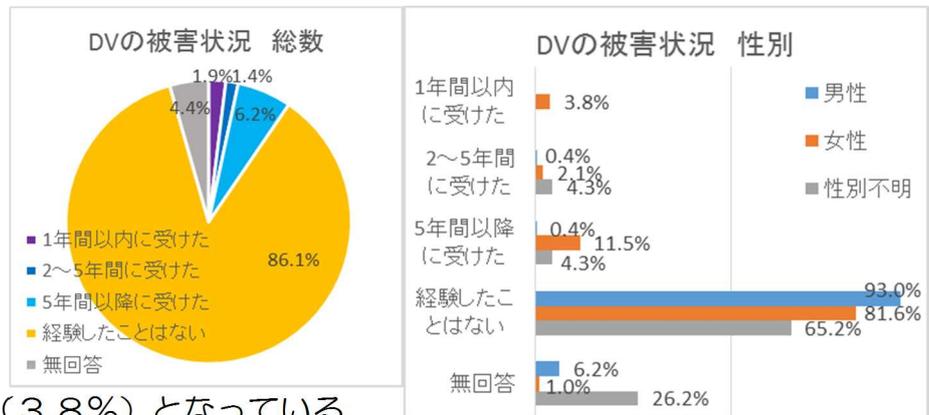
- 全体で5割以上が「知っている」と答えており、男性は50.8%、女性は59.7%と、女性の方がやや高い。
- 「知らない」割合は男性が4割以上で44.6%、女性は4割未満で38.9%となっている。
- 年代別で見ると、全年代で4割以上が「知っている」と回答している。
- 特に30代、40代は6割以上が「知っている」と回答している。
- H23と比べると、男性は18.2%、女性は21.6%も「知っている」割合が増加している。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	315	55.4%	131	50.8%	172	59.7%	12	52.2%
知らない	233	40.9%	115	44.6%	112	38.9%	6	26.1%
無回答	21	3.7%	12	4.6%	4	1.4%	5	21.7%

問20 「ドメスティック・バイオレンス（DV）」に関して、あなたは被害を受けたことがありますか？（回答は1つ）

- 男性は129人に1人（0.8%）、女性は約6人に1人（17.4%）が過去にDV被害を経験していた。
- 1年以内にDV被害を受けたことのある人は、男性0人に対し、女性は約26人に1人（3.8%）となっている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1年間に受けた	11	1.9%	0	0%	11	3.8%	0	0%
2～5年間に受けた	8	1.4%	1	0.4%	6	2.1%	1	4.3%
5年間以降に受けた	35	6.2%	1	0.4%	33	11.5%	1	4.3%
経験したことはない	490	86.1%	240	93.0%	235	81.6%	15	65.2%
無回答	25	4.4%	16	6.2%	3	1.0%	6	26.2%

問21 問20で「被害を受けたことがある」とお答えした方におたずねします。
その時あなたはだれに相談しましたか？（複数回答）

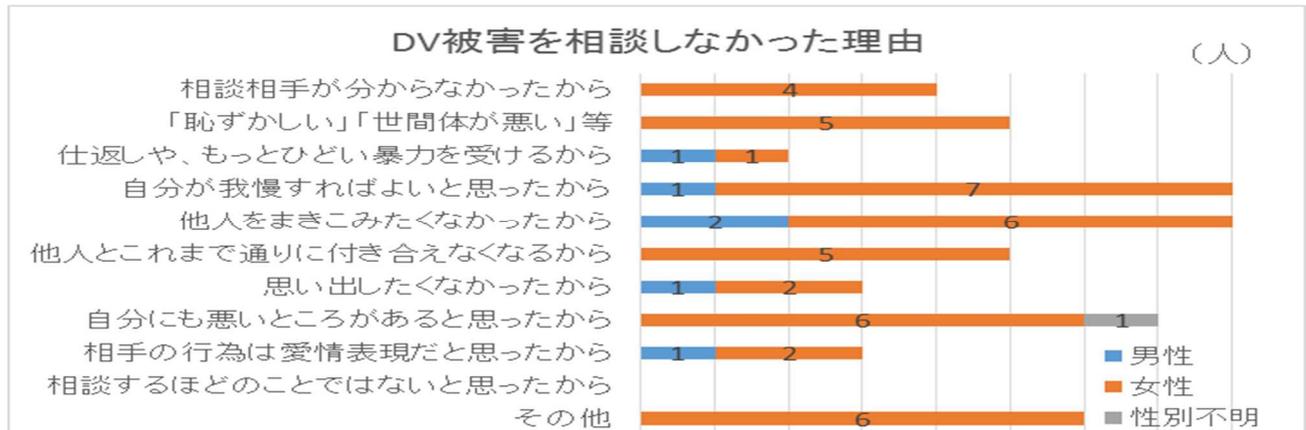
- 女性は5割以上が、男性は全員が「相談していない」と回答している。
- 「公的相談窓口」を利用した人は男性0%、女性6%で非常に少ない。
- 女性は「家族・親戚」「友人・知人」等、近い人に相談する傾向がある。

区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
警察	2	3.7%	1	50.0%	1	2.0%	0	0%
家族・親戚	17	31.5%	0	0%	15	30.0%	2	100%
友人・知人	12	22.2%	0	0%	12	24.0%	0	0%
医療関係者	2	3.7%	0	0%	2	4.0%	0	0%
学校関係者	1	1.9%	0	0%	0	0%	1	50.0%
琴浦町の関連する相談窓口	1	1.9%	0	0%	1	2.0%	0	0%
鳥取県に関連する相談窓口	2	3.7%	0	0%	2	4.0%	0	0%
民間の専門家や専門機関	1	1.9%	0	0%	1	2.0%	0	0%
その他	1	1.9%	0	0%	1	2.0%	0	0%
誰にも相談しなかった	28	51.9%	2	100%	26	52.0%	0	0%

問22 問21で「だれにも相談しなかった」とお答えした方におたずねします。

だれにも相談しなかったのはなぜですか？（複数回答）

- 男女ともに「自分が我慢すればよいと思った」「他人をまきこみたくなかった」の理由が、割合が高い。
- その他に女性は「恥ずかしい」「世間体が悪い」等、「自分にも悪いところがあると思った」を選んだ割合も、1割以上で高かった。



区 分	全 体		男 性		女 性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
相談相手が分からなかった	4	7.4%	0	0%	4	8.0%	0	0%
「恥ずかしい」「世間体が悪い」等	5	9.3%	0	0%	5	10.0%	0	0%
仕返しや、もっと暴力を受けるから	2	3.7%	1	50.0%	1	2.0%	0	0%
自分が我慢すればよいと思った	8	14.8%	1	50.0%	7	14.0%	0	0%
他人をまきこみたくなかった	8	14.8%	2	100%	6	12.0%	0	0%
他人とこれまで通りに付き合えなくなるから	5	9.3%	0	0%	5	10.0%	0	0%
思い出したくなかった	3	5.6%	1	50.0%	2	4.0%	0	0%
自分にも悪いところがあると思った	7	13.0%	0	0%	6	12.0%	1	50.0%
相手の行為は愛情表現だと思った	3	5.6%	1	50.0%	2	4.0%	0	0%
相談するほどのことではないと思った	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
その他（下記）	6	11.1%	0	0%	6	12.0%	0	0%

- 夫婦生活の事だし、お互いの気持ちの問題だと自分に言い聞かせている。
- 回りの人が噂話として広めるから。
- どうしていいのかわからなかった。
- DVを受けた以上にやり返した。
- 何も変わらないから。
- 2度と会わないと、その時にすぐ決めることができたため。
- 自分の身は自分で守れたため。

問23 問21で「誰にも相談しなかった」とお答えした方におたずねします。

そのときにどのような助けがあればよいと思われましたか？（複数回答）

- ・「身近な人に聞いてもらえる環境」「同じような体験をした人からの助言や援助」「カウンセリングや日常相談などの心の援助」を求める割合が高い。

男性1位・・・同じような体験をした人からの助言や援助 : 1人
 女性1位・・・身近な人に聞いてもらえる環境 : 7人
 2位・・・同じような体験をした人からの助言や援助 : 5人
 カウンセリングや日常相談などの心の援助 : 5人

- ・上記以外に、女性は「緊急時の相談体制」「自立に向けた生活支援」「加害者への取締りの強化」「緊急保護などの安全確保」と回答した人もいた。

区分	全体	男性	女性	性別不明
身近な人に聞いてもらえる環境	8人	0人	7人	1人
同じような体験をした人からの助言や援助	6人	1人	5人	0人
カウンセリングや日常相談などの心の援助	6人	0人	5人	1人
緊急時の相談体制	3人	0人	2人	1人
自立に向けた生活支援	3人	0人	2人	1人
加害者への取締りの強化	2人	0人	2人	0人
緊急保護などの安全確保	1人	0人	1人	0人
その他（下記）	4人	0人	4人	0人

- ・助けはいらないと思った
- ・事件が起こる前に、自分の身は自分で守る教育が必要。
- ・琴浦町や近辺の町ではない人に相談したい。役場に相談しても町内の人にばれる気がする。

問24 社会全体でDV、デートDVをなくすために、何が重要だと思えますか？（複数回答）

- ・全体として、「被害者が相談しやすい環境をつくる」「小さい頃からの男女平等の教育の充実」の2つは4割以上となっている。
- ・男性は特に「被害者が相談しやすい環境をつくる」と答えた人が多く、66.8%となっている。



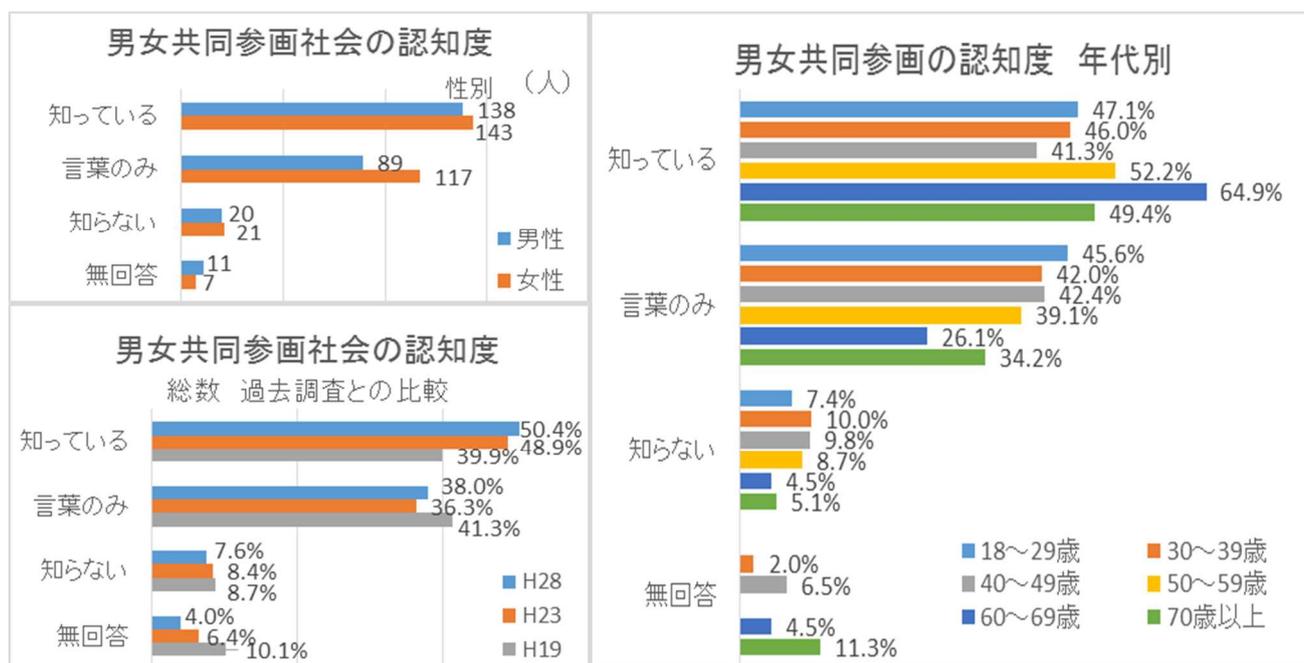
- ・女性は「小さい頃からの男女平等の教育の充実」と答えた人の割合が高く、47.6%と、約5割となっている。

6. 男女が共に手を取りあう社会にしていくために

問25 あなたは次の言葉を知っていますか？（回答はそれぞれ1つずつ）

◆男女共同参画社会

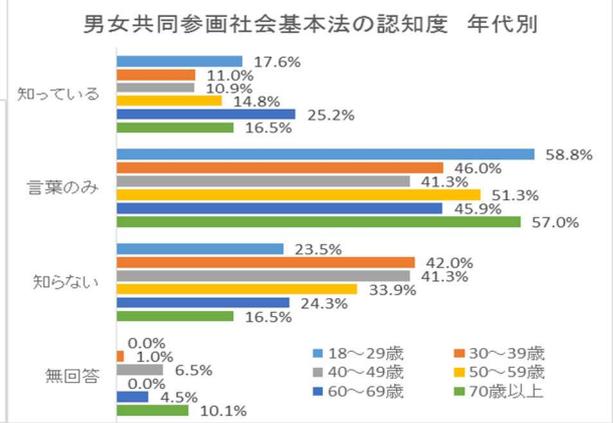
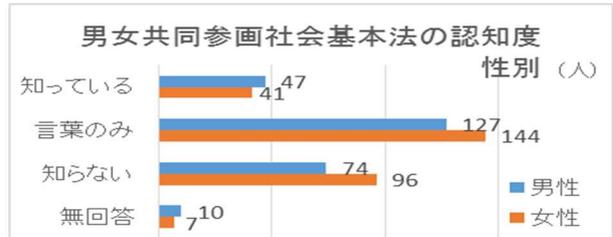
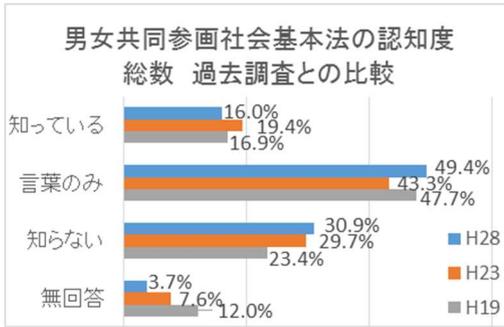
- ・男女ともに約5割が「知っている」と答えている。
- ・全年代の4割以上が「知っている」と答えて60代は認知度が特に高く、64.9%となっている。
- ・H19、H23と比べると、年々「知っている」と回答する割合が増加しており、9年間（H19～）で10.5%増えている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	287	50.4%	138	53.5%	143	49.7%	6	26.1%
言葉のみ	216	38.0%	89	34.5%	117	40.6%	10	43.5%
知らない	43	7.6%	20	7.8%	21	7.3%	2	8.7%
無回答	23	4.0%	11	4.2%	7	2.4%	5	21.7%

◆男女共同参画社会基本法

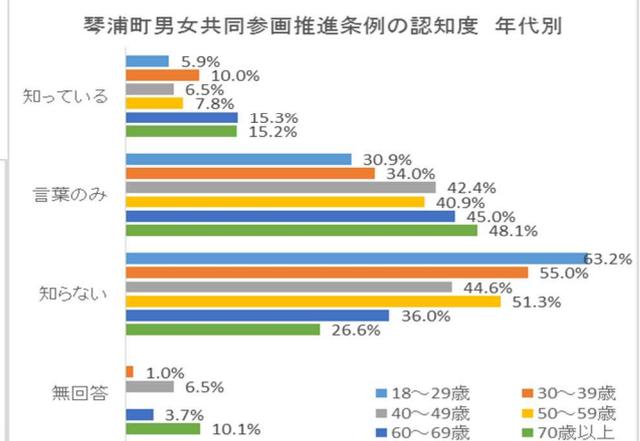
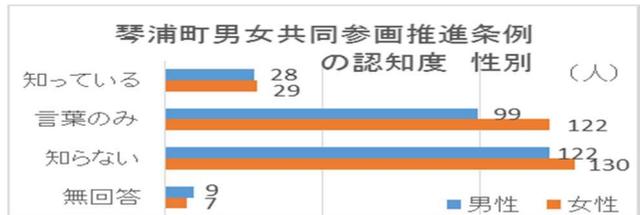
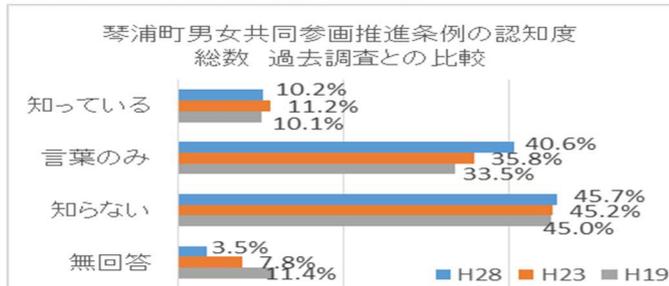
- 男女ともに認知度は低く、「知っている」割合は2割以下となっている。
- 約半数の5割が「言葉のみ知っている」
- 「知っている」は60代が25.2%で他より割合が高い。
- H23と比べて、「知っている」は3.4%減少したが、H19と比べて「言葉のみ知っている」は1.7%増加した。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	91	16.0%	47	18.2%	41	14.2%	3	13.0%
言葉のみ	281	49.4%	127	49.2%	144	50.0%	10	43.5%
知らない	176	30.9%	74	28.7%	96	33.3%	6	26.1%
無回答	21	3.7%	10	3.9%	7	2.5%	4	17.4%

◆琴浦町男女共同参画推進条例

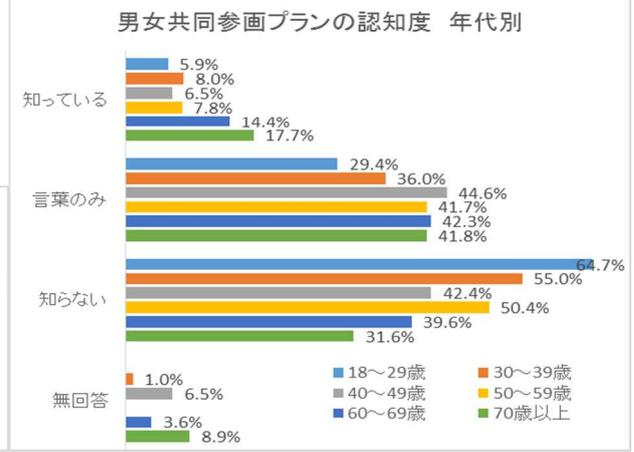
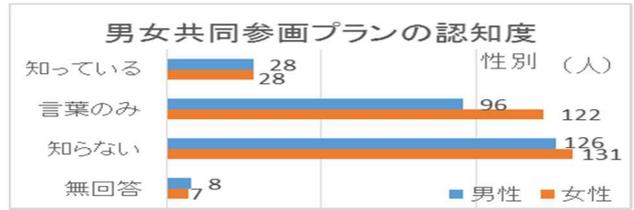
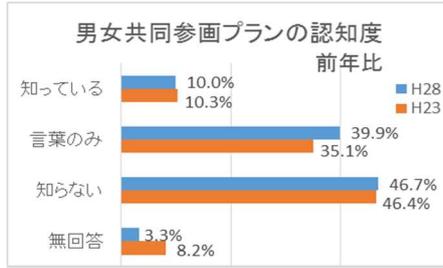
- 「知っている」割合は男女ともに1割程度。
- 18~20代は「知らない」割合が63.2%で特に高い。
- H19と比べて、「知っている」は0.1%と、ごくわずかだが増加した。
- 「言葉のみ知っている」は年々増加しておりH19から7.1%増えた。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	58	10.2%	28	10.9%	29	10.1%	1	4.3%
言葉のみ	231	40.6%	99	38.4%	122	42.4%	10	43.5%
知らない	260	45.7%	122	47.3%	130	45.1%	8	34.8%
無回答	20	3.5%	9	3.4%	7	2.4%	4	17.4%

◆琴浦町男女共同参画プラン

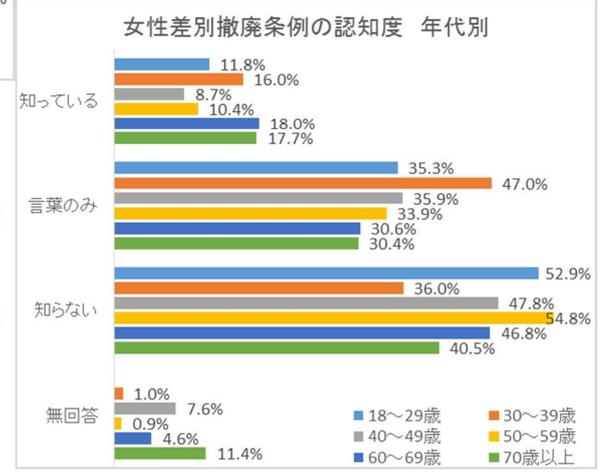
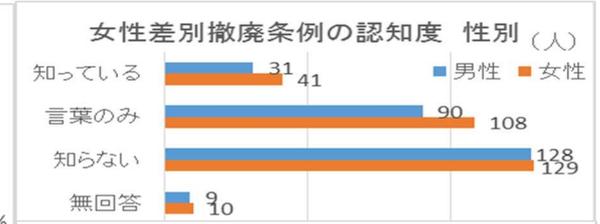
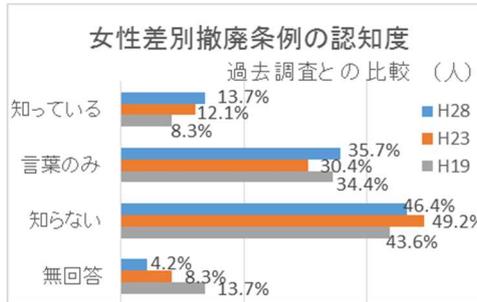
- 男女ともに「知っている」は約1割で低い。
- 60代・70代は「知っている」割合が1割以上で高くなっている。
- 「知らない」割合は18～20代が一番高く、64.7%と6割を超えている。
- H23と比べて「知っている」は0.3%と、ごくわずかだが低下している。
- H23と比べて、「言葉のみ知っている」が4.8%増加している。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	57	10.0%	28	10.9%	28	9.7%	1	4.3%
言葉のみ	227	39.9%	96	37.2%	122	42.4%	9	39.1%
知らない	266	46.7%	126	48.8%	131	45.5%	9	39.1%
無回答	19	3.4%	8	3.1%	7	2.4%	4	17.5%

◆女性差別撤廃条例

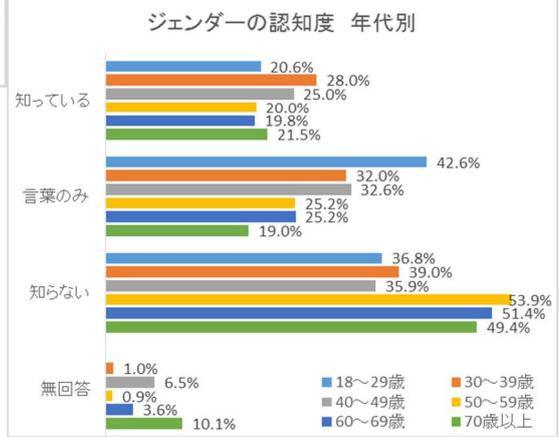
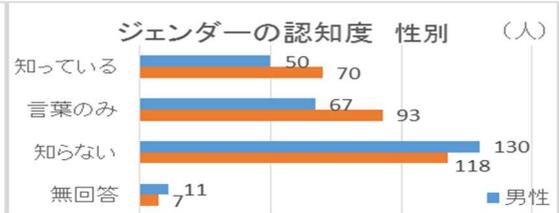
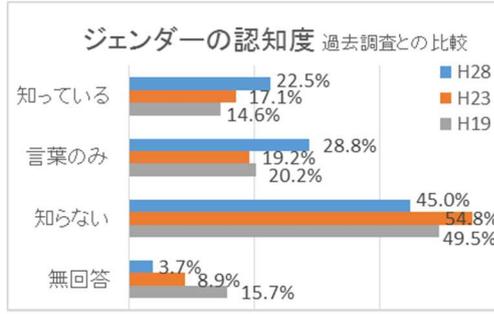
- 「知っている」割合は男女ともに1割以上。
- 40代の認知度が特に低く、「知っている」は8.7%と、1割以下となっている。
- 18～20代と50代は「知らない」割合が高く、どちらも5割以上となっている。
- 30代は「言葉のみ知っている」割合が他と比べて特に高く、47%である。
- 「知っている」は年々増加しており、H19と比べて5.4%高くなっている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	78	13.7%	31	12.0%	41	14.2%	6	26.1%
言葉のみ	203	35.7%	90	34.9%	108	37.5%	5	21.7%
知らない	264	46.4%	128	49.6%	129	44.8%	7	30.4%
無回答	24	4.2%	9	3.5%	10	3.5%	5	21.8%

◆ジェンダー

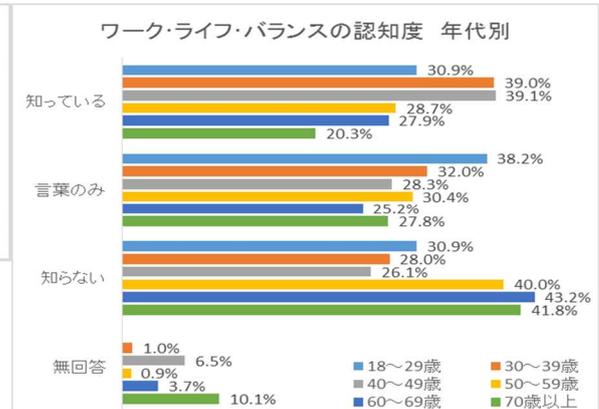
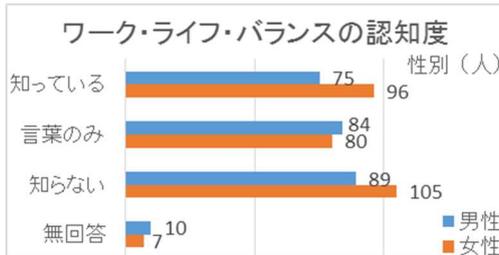
- ・認知度は男女ともに約2割。
- ・どの年代でも約2割が「知っている」。
- ・特に30代は28%で、他より認知度が高い。
- ・若いほど「言葉のみ知っている」割合が高く、18～20代は42.6%となっている。
- ・年々「知っている」は高くなっており、H19から7.9%増えている。
- ・「言葉のみ知っている」割合はH23と比べ、9.6%と少し増加している。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	128	22.5%	50	19.4%	70	24.3%	7	30.4%
言葉のみ	164	28.8%	67	26.0%	93	32.3%	4	17.4%
知らない	256	45.0%	130	50.4%	118	41.0%	8	34.8%
無回答	21	3.7%	11	4.2%	7	2.4%	4	17.4%

◆ワーク・ライフ・バランス

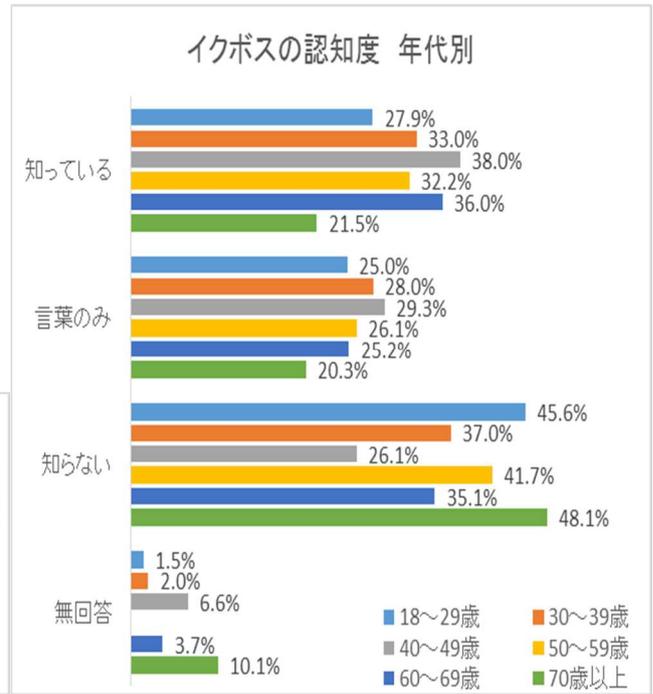
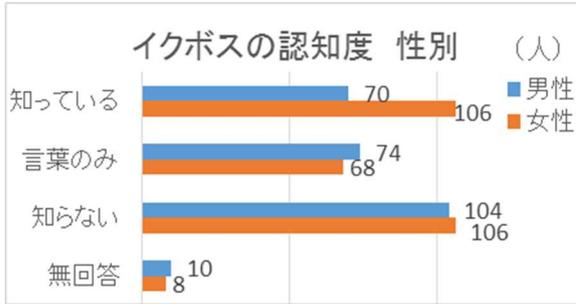
- ・男女ともに約3割が「知っている」と回答している。
- ・「知らない」割合も男女ともに4割以下となっている。
- ・30代・40代の認知度が高く、約4割が「知っている」。
- ・「言葉のみ知っている」は18～20代が一番高く、38.2%となっている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	177	31.1%	75	29.1%	96	33.3%	6	26.1%
言葉のみ	170	29.9%	84	32.6%	80	27.8%	6	26.1%
知らない	201	35.3%	89	34.5%	105	36.5%	7	30.4%
無回答	21	3.7%	10	3.8%	7	2.4%	4	17.4%

◆イクボス

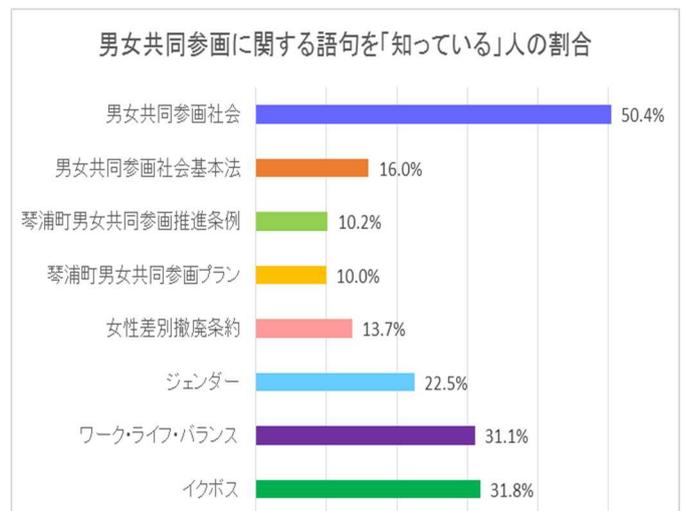
- 男性は27.1%、女性は36.8%が「知っている」と回答しており、やや女性の方が高い。
- 70代以上の認知度は他の年代と比べて低く、21.5%となっている。
- 「知らない」割合が、18～20代と70代が特に高い。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
知っている	181	31.8%	70	27.1%	106	36.8%	5	21.7%
言葉のみ	147	25.8%	74	28.7%	68	23.6%	5	21.7%
知らない	219	38.5%	104	40.3%	106	36.8%	9	39.1%
無回答	22	3.9%	10	3.9%	8	2.8%	4	17.5%

◆全体を通して

- 「男女共同参画」「琴浦町男女共同参画推進条例」「女性差別撤廃条約」「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「イクボス」いずれも女性の方が、認知度が高い。
- 過去調査と比べて、「男女共同参画社会」「女性差別撤廃条約」「ジェンダー」は認知度が上昇している。
- 「男女共同参画社会」の認知度は約5割。
- 「琴浦町男女共同参画推進条例」「琴浦町男女共同参画プラン」の認知度は約1割に留まっている。
- 「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「イクボス」のカタカナ言葉は70年代の認知度が低くなっている。

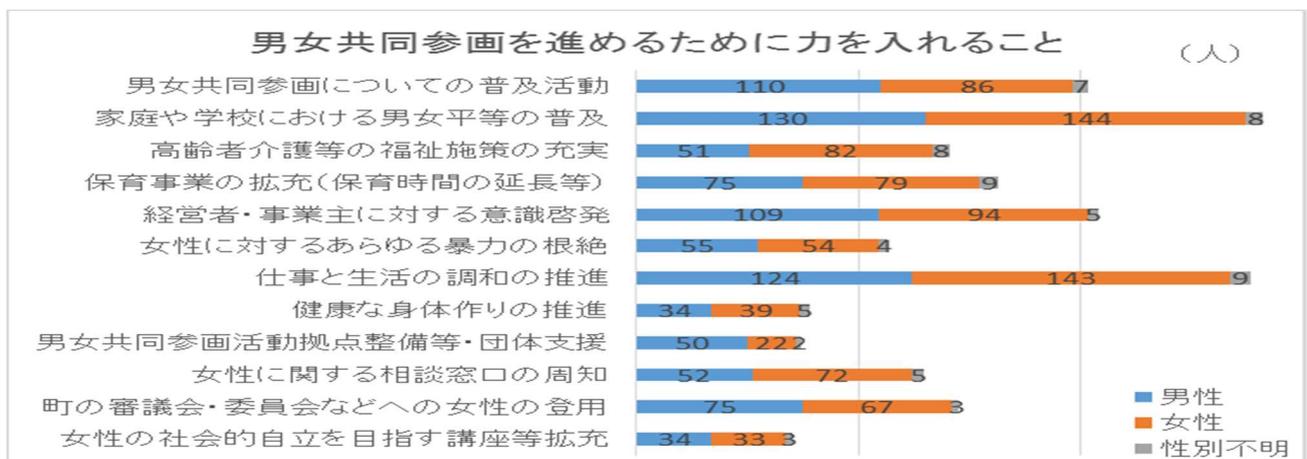


問26 男女共同参画を進めるために、琴浦町では今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(複数回答)

- 男女ともに「家庭や学校における男女平等の普及」「仕事と生活の調和の推進」が約5割で、上位2つとなっている。

男女1位…家庭や学校における男女平等の普及 : 男性50.4%、女性50.0%
 2位…仕事と生活の調和の推進 : 男性48.1%、女性49.7%
 男性3位…男女共同参画についての普及活動 : 42.6%
 女性3位…経営者・事業主に対する意識啓発 : 32.6%

- 上記の他に、全体では「経営者・事業主に対する意識啓発」や「男女共同参画についての普及活動」も3割以上で高くなっている。



区分	全体		男性		女性		性別不明	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男女共同参画についての普及活動	203	35.7%	110	42.6%	86	29.9%	7	30.4%
家庭や学校における男女平等の普及	282	49.6%	130	50.4%	144	50.0%	8	34.8%
高齢者介護等の福祉施策の充実	141	24.8%	51	19.8%	82	28.5%	8	34.8%
保育事業の拡充(保育時間の延長等)	163	28.6%	75	29.1%	79	27.4%	9	39.1%
経営者・事業主に対する意識啓発	207	36.4%	109	42.2%	94	32.6%	5	21.7%
女性に対するあらゆる暴力の根絶	113	19.9%	55	21.3%	54	18.8%	4	17.4%
仕事と生活の調和の推進	276	48.5%	124	48.1%	143	49.7%	9	39.1%
健康な身体作りの推進	78	13.7%	34	13.2%	39	13.5%	5	21.7%
男女共同参画に関する活動拠点の整備や充実と活動団体への支援	74	13.0%	50	19.4%	22	7.6%	2	8.7%
福祉・健康・労働など女性に関する相談窓口の周知	129	22.7%	52	20.2%	72	25.0%	5	21.7%
町の審議会・委員会などへの女性の登用	148	26.0%	75	29.1%	67	23.3%	3	13.0%
女性の社会的な自立を目指す講座などの拡充	70	12.3%	34	13.2%	33	11.5%	3	13.0%

問27 男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望などがありましたら、何でもご自由にご記入ください。

◆男女共同参画の普及

- 琴浦町男女共同参画プラン、推進条例を町民にPRして欲しい。
- 文化センターや地区公民館など身近な地域での勉強会や講演会、説明会を開催して欲しい。
- 企業・学校教育等で、男女共同参画社会についての学習強化を図る。
- 高齢者は、男女共同参画に関する言葉は知っているが、意味が分かっていない。
- 特に男性に男女共同参画の意識啓発、勉強会に参加して欲しい。
- 自分の身近なところから意識を変えていくべき。
- 基本的なところから説明し、充分理解してもらう必要がある。
- 社会で活躍する女性のリーダーが少しずつ出てきている。
- 高齢者への啓発（家事は女性の仕事と思っている人が多い）。自分のことは自分でする意識を持ってほしい。
- 現状が見えにくいいため、町報などでもっと見えるようにして欲しい。
- 会社や家庭での意識が薄いため、行動を起そうとしてもまだまだ遠いような気がする。

◆人権尊重の推進

- 男性の役割、女性の役割をお互い理解し尊重しつつ、小さな頃から相手を思いやる気持ちを誰もがもてるような啓発活動を行う。
- どのような事でも、自由に話し合える社会の実現
- 男女関係無く、得意なところをお互いやっていけばよいのではないか。
- 本人が思う通りに仕事や子育てが出来る社会が当たり前になるように推進する。
- 自分の経験や「こうあるべきだ」の考えで、その人を追い込まないで応援して欲しい。

◆小さな頃からの意識づくり・教育

- 「正しくて本人にちゃんと考えさせて答えを導き出してもらえる教育」をして欲しい。
- 「平等」について誤った認識や偏った知識を持たせることがない教育をして欲しい。
- 男女平等は大変良いことだと思うが、余りこの事を強く強調しすぎると本来男女の持っている強さ、優しさみたいなものが歪み、今の子ども達に表れているのではないか。
- 学校における男女平等の教育

◆男女の意識改革の推進

- 女性の意識改革が必要
- 女性が共同参画を希望していない。
- 男性の意識改革が最も重要。
- 権利を主張するのであれば、責任を果たす、意識を持つこと。しかし、1人で抱え込まない。それが可能となる行政のサポート。

◆職場の環境整備

- 各職場での女性進出はめざましい。
- 男性は仕事ばかりで家庭に目を向ける時間が少なすぎる。労働基準をきちんとすべき。
- 女性の働きやすい場所をもっと作って欲しい。
- 賃金格差を是正し、女性でも安心して働ける職場づくりを推進していくべき。
- 仕事等で「今日休みください」と言える環境を作って欲しい。
- 正職員と臨時の人達と同じ仕事をしているのに給料など格差がありすぎる。

◆ワーク・ライフ・バランス推進

- 時間外労働の削減や休暇等のしやすい環境が、職場や社会全体に必要。
- 琴浦町がモデルとなる取り組みを行って欲しい。
- 男性の育児休暇・介護休暇の取得向上が必要。
- 子育てや介護に関する職場の理解を深めること。
- 子育てをしながら働ける環境の整備が必要。(例えば、小学校の放課後児童クラブの保育時間延長)
- 福祉の充実(保育・介護の負担が家庭に重くのしかかると、結局は女性の仕事になる)。
- 保育施設などを備えた職場を増やす。
- 障がいや病気を持った人を安心して預けられる場所をつくる。
- ワーク・ライフ・バランスの成功例、失敗例などから見えてくる本質的な問題の勉強会・討論会の開催。
- 男性が、家庭との時間を日常でも作れるようにしてほしい。
- 子どもの急な病気や迎えなど、やはり仕事を休まないといけなくなり困るのは女性。

◆家庭での男女共同参画推進

- 男性に対して、家等の講座等を開催する。
- 女性が母親になった時、男性や社会が、どうフォローすべきかが大切。

◆子育て支援の充実

- 3歳まで育休が取れることを支援する。
- 育休手当金を1～3歳まで支給し、経済的に支援してもらいたい。
- 出産の支援の充実。
- 本当に保育を必要としている人をきちんと見極める制度や条例などを作って欲しい。

◆こころとからだの健康の推進

- 町民の健康教育の推進の実施
- DV等は男性が受けている場合もあるのではないか。
- 助けて欲しいけど助けてと言えない人もいる。どう周りの人には知られず相談してよい方向へ展開できるか。そんな配慮ができる窓口があればいい。

◆自治会・地域活動での推進

- 自治会活動の女性進出は低調だと常々感じている。めんどろなことは男性にさせておけばいいという意識があるのではないか。
- 役場職員の地域会合、活動への参加。
- 自治会会長に女性が就任して活躍できるよう、男女を問わず協力・応援するといった身近な事から出来るよう、行動しなければと考えている。
- 部落ごとの運動会等で、老若男女が集まって競技するのも楽しいかもしれません。
- 男女平等は進んできてはいるが、時々「これは女性の仕事」というような昔の流れを地域活動で見かける事がある。
- 各自治体で行事や慰労会を行うとき、準備・片付けは女性で、男性の飲食の為に女性が働かなくてはならない。高齢者はこのことを当たり前と思っている。

◆行政施策の拡充

- 町会議員の女性登用。(男女比を半分にする、女性が出馬できる環境整備、政治に関する講座で女性の関心を高めるなど)
- アンケート等により町民の意見を聞き、事業に反映して欲しい。
- 琴浦町内で実際取り組んでいる男女共同参画が進んできたと思われる事例を取り上げ、町報などで紹介する。賞を贈っても面白い。
- 外に出て男女それぞれの生の声を聞く。
- 行政の前向きな応援による町民の自発力の養成を期待します。
- まず女性をターゲットにすると、男性も参加して、町民全体に波及していく。
- 個々人の実情に合わせた柔軟な対応をする。
- 女性社会に進出したときに、サポートしていく社会づくりが必要。
- 男女共同参画とよく言われていますが、上っ面な企画に思えてなりません。
- 子供達の未来を考える共同参画社会にしてほしいです。
- 男女関わり合えるイベントや話し合える場を企画すると、男女ともに社会での生活に生きがいであったり、共感出来生活しやすい町になる。(後々、経済波及効果を生み出す)

◆その他

- 差別はダメだが、区別は必要。男女の違いを理解した上で社会を考えること。
- バランスが大事。
- 男女がともに意見を出せるような社会にし、でも決定は責任を持って男性が行う方がいいと思う。
- 男社会というのもあるが、女性も強い気持ちで進んで欲しい。
- 男だからできる、女だからできるという場面もあるので、間違えないよう正しく伝えてもらいたい。
- 各家庭によって事情が違い、役割分担があるのは当たり前で、男女共同参画だからといって無理やり女性を参加させるというやり方には違和感がある。
- 女の仕事を男がして、男の仕事を女がすれば男女共同参画と捉えている人も多い。
- 男女平等の前に、個人々の義務を先に果たす権利ばかりを主張する風潮が見える。
- 男には男、女には女の事情がある。
- お互いの立場に立って、世の中を明るく、生きれてよかった人生を送りたく、自分さえ良ければとの個人的な考えはなくて、よい町づくりに頑張りたい。



人と町がつながる

コトウライフ

KOTOURA LIFE